

上州平井村長吏九郎左衛門訴申ニ付太郎左衛門召出遂糺明候處太郎左衛門捧訴申條尤道理之旨裁許畢然ハ平井村長吏九郎左衛門一類上州武被拂上若被拘方有之ハ急度可申届猶於承引ト小田原々注進可申旨依狀如件

評定衆

弘治二年正月十日

石卷下野守判

長吏

太郎左衛門

一長吏源左衛門御國御免之儀被仰出候處沼田道入者義横合申剩太郎左衛門子方沼田庄本屋敷ト返間敷由申候哉然る上沼田孫次郎代福島孫七ニ堅被仰付候向後ハ無相違可申付此上源左衛門兎角申付ハ可被拂御國事

一長吏彈左衛門被拂御分國之處厩橋長吏所ニ有之由申候此度厩橋代官品川ニ被仰付候此上令徘徊付而ト見逢ニ太郎左衛門咎ニ申付可致成敗候何之知行不入之地ニ有之芝罘人之上拘方不可有之可致討捨者也仍而如件

永祿二年八月七日

狩野大膳亮 奉之

長吏

太郎左衛門

定

西上州長吏職砥假事爲始小幡善田原代吾分所相斗先證曆然之間自今以後不可有御相違畢竟可守舊例之間所被仰下也仍如件

天正四年八月七日

跡部大炊介 奉之

朱印

西上州長吏

介左衛門

御傳馬壹疋自江戸小田原迄無相違可被立候是ト鹿毛皮白皮ニ被成候御用ニ參候者也仍如件

辰二月六日

青常陸判

内修理判

大石見判
長谷七左判
伊備前判

江戸品川神奈川程ヶ谷藤澤平塚大磯小田原迄猶々爲御用板目皮被 仰付候間可被人情候以上

今度御陣爲御用板目皮入申候間方々被相尋矢部掃部殿迄可相渡候皮參着次第代物之儀相渡可申候爲其如此候以上

五月十七日

内藤修理

清常印

彈左衛門殿

鹿之皮二百拾九枚白あめーニ申付候いづものごとく御分國中皮作罷出彈左衛門相談ニ而早々仕可上者也仍而如件

七月廿日

青常陸印

御分國中皮作

彈左衛門

鹿之毛皮七十三枚細皮ニ申付候いづものごとく御分國中皮作罷出彈左衛門と相談候而早々仕可上者也仍如件

八月十九日

青常陸印

御分國中皮作

彈左衛門

急度申入候仍 大納言様より被 仰付候鹿毛皮いづも彈左衛門所々申付候而白皮ニ仕上申候何も御分國中皮作申付仕上候由ニ候夫付其方御代官所之皮作迄致間敷由申候と存 彈右衛門申候左様ニ候哉御尋候而いづも致付候人ニ被 仰付候而尤々と存候爲其如此候 恐々謹言

十二月廿日

青山常陸介忠成 印

奥平美作殿

御下代衆

今度御武者揃之御用ニ付さし皮四百八拾ふり入申候四月二日ヲ切テ御分國中不嫌猶門之急度可持參候代物之儀と賣買并ニ可被下候若日限相延候ハ、可爲曲事候

申三月

奈良八郎左衛門判

岡田又兵衛判

在所

皮作衆

乍恐書付ヲ以御願申上候事

一三御番所様に罷出候格式役之者ニ私逆ニ罷成候儀と渡邊大隅守様村越長門守様御代相勤申候彈左衛門病身ニ付名代ニ而相勤候砌り段々不身上故平日御用之節ハ召仕と然と格式之様ニ罷成申候從往古大御老中様奉初所御奉行所様々刀上下ニ而今以相勤申候御番所様之義平日御用多故自然と略儀ニ仕候處只今格式之様ニ罷成候儀と私方より誤來候儀御座候此度奉願上候ハ只今迄役之者指出御伺仕候儀も向後私直ニ相勤可申間何卒古來之通御門内迄刀ニ而出勤仕候様被 仰付被下候ハ、難有可奉存候以上

淺草

彈 左 衛 門

享保四亥年二月

右御番所前迄帶刀候儀差免候段彈左衛門に可申渡旨年番坪内組小原六左衛門中山組河邊彦大夫大岡組植竹藤左衛門三人に同月廿六日申渡但シ上下と不差免尤以美服着仕間敷段是又可申渡旨三人に申聞候事

乍恐以書付御伺申上候事

一一昨廿六日私被召寄三御番所様御門内迄帶刀相勤候様ニ被 仰付難有奉存候就夫御伺奉申上候與頭貞右衛門淺右衛門儀と私同意ニ支配下取扱仕惣御役所様と罷上り申候節私上下着用仕與頭羽織袴ニ而相勤來申候支配下之儀御尋又ハ御用之品ニ寄與頭とも罷出候儀御座候然上と此儀も役之者とのハ格式逆ニ罷成申候間羽織斗ニ而刀帶三御番所様と爲相勤申度奉存候依之御伺奉申上候以上

淺草

彈 左 衛 門

享保四亥年二月廿七日

右組頭貞右衛門淺右衛門御番所前迄刀帶申候儀差免候段彈左衛門に可申渡年番能登守組小原六左衛門出雲守組河邊彦大夫越前守組植竹藤左衛門三人に同月廿九日申聞候事

追而差出候書付

乍恐以書付申上候

一此度私由緒御尋ニ付先達而差上置候古證文等も寫并由緒書壹通差上候其刻申上候得共手下之儀勿論預置候得者私所持仕候も同前ニ御座候間爲取寄申候間御披見之上御書留置奉願上候尤關八州私手下之者共國守領家之御朱印御黒印數通所持仕候間御探題之上段々差上申度奉願上候

とい恐クハ眞ノ字
ノ草休ヲ誤リタル
ナラン

一北條時頼公之御時於由比濱日蓮上人御刑罰之節私被召罷出候役之者之内日蓮上人を勞り候得者とい筆の法華經五之卷一卷被致附屬于今私所持仕候此儀ニ付縁記等も御座候

一御上洛之節攝津國河邊郡池田領火打村長吏八左衛門太兵衛ニ申付御絆綱諸事皮類御用相勤申候古來之御書付御廐御別當西御丸下諏訪部惣左衛門様御受取所持仕候依之御代替之節者罷下御上洛之上御殿々御目見ニ被召罷上申候并御上洛之於御道筋ニ皮類被 仰付候節ハ支配之外迄も其邊之長吏共ニ私下知仕相勤申候

一先年日光御社參之御時猿引被爲 召出御泊り之御殿ニ而御上覽被爲 遊候刻私手下之猿引十二人召連相勤申候此節者御扶持頂戴仕候伊奈半左衛門様より奉受取候御上覽之上御持扇頂戴仕今ニ所持仕候右書上之通由緒書御帳面ニ御書加奉願上候以上

享保十巳年九月

淺草

彈 左 衛 門

御役目相勤候覺

- 一御入國以來西ノ御丸御廐々今以御絆綱御用次第差上申候
- 一御陣太鼓御用次第張上申候
- 一皮類御用之節何ニ而も差上相勤申候
- 一御尋者御用在邊ニ不限被 仰付次第相勤申候
- 一御牢屋敷焼失之節御囚人脇々御移被遊候節外側々晝夜番人加勢差出申候
- 一御召之斃馬埋申候人足差出相勤申候
- 一御施行之砌木戸々々棒突人足大勢差出相勤申候
- 一同傳馬役相勤申候
- 一御施行之砌入用之諸色買上勤申候
- 一關八州惣支配之出入等私方ニ而裁許仕
- 御公儀様々差出不申候諸法度之趣平日申渡諸事差引仕申候支配之外ニ而も御當地々罷上

候出入之節ハ私方ニ被爲 仰付諸事差引仕申候
右之通從往古相勤申候

享保十年巳九月

淺草
彈左衛門



宛行

長吏職之事

法名 別 阿

兩代官 四郎兵衛

同 太郎兵衛

山内 五郎兵衛

右任右大將家御判旨相模國鎌倉由井長吏賴久今別阿東八ヶ國長吏可進退者也然而彼御文
言雖東鶴岡御寶殿籠別阿深欲仰上直召下畢依爲此同類山内彦左衛門賴助藤津之七郎左衛

門賴通何モ八幡官掃除以下役無懈怠可相勤狀如件

鶴岡少別當法眼良能

大永三未年三月廿三日

賴朝御判於鶴岡申請時官途之



下山内

長吏五郎左衛門

大永三未年三月廿三日



法名別阿

下鎌倉由井長吏 賴久

天保八百年十月九日寫終

神原德柔

(右町方記録一册奥右筆神原孫之丞德柔ノ手寫スル所ニ係ル)

吹塵餘錄第三冊目錄

一 寬永日記抄

但德川秀忠德川家光上洛ノ事并ニ二條行幸ノ事ヲ記ス

寛永日記増補卷第二

寛永三年丙寅

五月廿七日依 御上洛仰出サル御條目

條々

- 一 今度御供之時不可脇道并町通家之際除左右可供奉事
- 一 喧嘩口論火事其外如何様之儀雖爲出來番頭組頭之下知かくて其身之事ハ勿論下人等迄一切不可出合事
- 一 今度御供中人返し候儀令停止畢自然於有申旨者 還御以後可爲沙汰但重科之者ハ爲各別之間奉行人ハ相斷可受裁許事
- 一 路次中御着座之刻馬より下り馬ハ其所ニ置供之者ヲ通し其次ノ馬を通し其後諸道具を可通事
- 一 目付之面々并番頭諸奉行之儀者不及沙汰假如何様之輩申斷と云共御法度之旨不可違背事
- 一 御供之時狼藉者之事其身ハ死罪主人ハ可出過料事
- 一 諸道具入まゝ通るへらさる事
- 一 小荷駄馬ハ右の方へつけ通をへ但山坂よてハ小荷駄を山の方へ付て可通事

一 猥に竹木を剪採へうらさる事

附作毛之場ニ馬を放へうらさる事

右之趣若有相背者隨科之輕重或ハ死罪或ハ流罪可爲過怠自然御目付之者并番頭諸奉行見のうし聞のうし令用捨ハ其科之一倍可出過料此外具ニ下知狀可相見者也

寛永三年寅五月廿七日

覺

一 脇道町際行事過料銀子壹枚

一 喧嘩口論火事等之時無下知出合輩曲事あるへし

一 路次中 御着座之刻馬よりをて候而已後之次第違背之輩過料銀子壹枚

一 御目付番頭諸奉行之外いふ様之仁にても御法度之旨申斷候處令違背族之事曲事

一 馬上之際は召連歩行もの、事馬取二人沓持一人草履取一人持鍮一本之外若黨可相列此段相違之輩之事過料銀子壹枚

一 騎馬之中へ乗替之馬引入輩過料銀子壹枚

附被爲 召候人之馬ハ各別之事

一 御供之時狼藉者之事其身ハ死罪主人よりハ過料

但科之隨輕重又ハ依其分限可申付事

一 供奉之時馬之口をとらせ并高聲之事過料銀子壹枚

一 諸道具入まゝと通る事過料銀子壹枚

一 剪採竹木事曲事

一 御供番不參之事其分限過料あるへき事

一 路次中御宿所よおわて御番之儀江戸御番御置目之ことくあるへき事

一 別人之宿札刺候事過料銀子壹枚

一 天氣能之時騎馬之中へ雨道具をさせ候者事過料銀子壹枚

附笠雨鞍覆ハ不苦事

一 自分之宿札刺候事過料銀子壹枚

一 御宿之所并御茶屋よて無差圖衆むさと振舞被下候事過料銀子壹枚

一 御供之時騎馬之中へ刀筒からかさ其外見苦き物入交候事過料銀子壹枚

一 御着座之刻御供之衆馬よりおりすて直宿へ乗入候事過料銀子壹枚

一 何事よらひかりこと申族曲事

一 組頭無之衆一人宛 殿中よ可相詰事

一 馬よ聲をかけ并御宿之町よて馬之口を洗ふ事過料銀子壹枚

一御目付番頭諸奉行入御法度之趣見のうゝ聞のうゝ於用捨者其科一倍可出過料事
右堅可被相守此旨者也仍執達如件

寛永三年寅五月廿七日

覺

一今度御上洛御供之時路次中御法度之旨面々儀者不及申下々迄堅可申付事
一宿々よて他所之衆とハ不及申傍輩中よても互よ振舞堅可爲無用

附泊之宿へ着用所あく下々町あきき一切いささせ申間敷候宿よて下々不致高聲候様よ
堅可申付事

一路次中杳草鞋已下其外何よても買物いぬ候時賣主不致合點候事の又ハ惡錢を無理よ出
一通る事無之様ニ下々々可申付事

一如御定宿賃を出し諸取候者亭主之手形を取可罷通事

附宿札刺不申との義其外下々よ至迄出入無之様之手形を取可罷通事

一路次中宿札有之所明候とても斷あくといり申間敷事

一身ありうふきぬる者侍小者よよらけ召連不申様ニ仲ケ間として致吟味ぬるか可申事

一京よても右之趣違背申間敷候

寛永三年寅五月廿七日

路次中宿賃御定之事

一人よ四文 一馬よ八文

但自分之薪ぬき候ハ、人よ貳文馬よ四文馬屋もあく自分之薪ぬきは貳文馬屋あく共亭主
の薪ぬきは四文ぬるへ

一京よてハ馬屋あく外よつあき自分之薪ぬき候よも四文ぬるへ

寛永三年寅五月廿七日

今度御上洛よ付て供奉之面々其分限よ依而御扶持方下サル品

覺

一百石	七人	一百五十石	十人
一貳百石	十人	一二百五十石	十一人
一三百石	十二人	一三百五十石	十三人
一四百日	十四人	一四百五十石	十五人
一五百石	十六人	一五百五十石	十七人
一六百日	十八人	一六百五十石	十九人

一七百日石	二十人	一七百日五十石	廿一人
一八百日石	廿三人	一八百日五十石	廿三人
一九百日石	廿四人	一九百日五十石	廿四人
一千石	廿五人	一千百石	廿五人
一千二百石	廿六人	一千三百石	廿七人
一千四百石	廿八人	一千五百石	廿九人
一千六百石	三十人	一千七百石	卅一人
一千八百石	卅二人	一千九百石	卅三人
二千石	卅四人	二千百石	卅五人
二千二百石	卅六人	二千三百石	卅七人
二千四百石	卅八人	二千五百石	卅九人
二千六百石	四十人	二千七百石	四十一人
二千八百石	四十二人	二千九百石	四十三人
三千石	四十五人	三千五百石	五十二人
四千石	六十八人	四千五百石	六十七人

一五千石 七十五人
 一二万石 三百人
 右之通御扶持方被下之者也

寛永三年寅五月 日

今度依 御上洛從江戸至京都 公供奉之面々宿割

二万二百石	酒井阿波守	一壹万石	百五十人
十四万二千石	土井大炊頭	一三万石	四百五十人
五万二千五百石	井上主計頭		
八万七千六百石	永井信濃守		
一万六千四百石	青山大藏少輔		
三万千百石	高力攝津守		
二万二千石	松平右衛門大夫		
一万千八百石	板倉内膳正		
一万五百石	秋元但馬守		
二千石	阿部修理亮		

五百一本子五千
 作る

渡一本ふ作ふつくる

部屋住

井上河内守
高力左近大夫

御小姓衆

千五百石	本多美濃守	千五百石	酒井下總守
二千石	松平伊賀守	二千石	太田采女正
千五百石	鳥居讚岐守	三千石	三浦山城守
二万石	土屋民部少輔	千石	松平兵庫頭
千五百石	戸田淡路守	千石	本多主馬助
千石	戸田次郎九郎	千五百石	三井市藏
千石	八木勘十郎	五百石	島田庄五郎
千石	山崎權八郎	八百石	戸田藤九郎
五百石	大塚小善次	千石	大澤右京亮
一万三千石	京極主膳正	三千石	有馬出雲守
三千二百石	永井長次郎		島田兵四郎
	森川喜内		

一本ふ森川喜内をのそく

御目付衆

四千五百石	加々爪民部少輔	二千五百石	永井監物
二千六百石	渡邊半四郎	二千石	牧野清兵衛
千七百石	豊島主膳		

御使番衆

二千石	清水權之助	二千石	天野佐左衛門
千五百石	長谷川四郎兵衛	千四百石	今村傳四郎
千八十石	石川三右衛門	千石	永田勝左衛門
六百石	花井庄右衛門		

御歩行頭衆組十三人宛

四千五百石	岡部兵庫	四千石	長谷川久三郎
二千石	小栗又市郎	千五百石	伊澤隼人正
千五百石	榊原左衛門		

御醫師

七百石	道三法印	部屋住	民部大輔
-----	------	-----	------

三百石	安西法印	五百石	永喜
御右筆衆			
四百六十石	松雲	八百二十石	建部傳内
二百石	志賀半兵衛	三百石	川副六兵衛
百五十石	鈴木權兵衛	百五十石	久保吉右衛門
百石	星合太郎兵衛		
御膳奉行			
五百石 <small>同心五人</small>	土屋忠二郎	五百石 <small>同心五人</small>	朝倉仁左衛門
將軍様御使		駿河中納言殿使	
尾張中納言殿使		紀伊中納言殿使	
水戸宰相殿使			
御臺所衆			
七百七十石	神谷縫殿助	二百石	神谷又六郎
	万人		堀谷孫九郎
	神尾五助	御臺所衆十九人	

一本水戸宰相殿使を除く

御下男二十二	二百石	倉橋庄兵衛
御賄衆二十人		
六尺十五人	四百五十石	矢部掃部
御納戸衆同心十人		
三千五百石	頭 <small>十郎殿</small> 杉浦市右衛門	落合小平次
四百石	上田善次郎	高木甚兵衛
三百五十石	山田七右衛門	田中市郎右衛門
四百五十石	新見彌五郎	横山藤左衛門
二百石	速見七兵衛	松永源藏
二百石	頭 杉浦十兵衛	天野小三郎
四百石	筒井内藏	石川六左衛門
四百石	井上次郎兵衛	服部助左衛門
二百石	米津彦七郎	杉浦長藏
二百石	天野新五郎	關兵三郎
御腰物方衆		

四百石	松波梶平	五百石	野々山新兵衛
三百石	三橋善兵衛	三百石	平賀三五郎

御書院番 井上主計頭組

二千石	高木善次郎	四千十石	津田平左衛門
三千石	桑山内匠	千九百石	森伊豆守
千五百石	森左兵衛	千石	松平日向守
千石	松倉十左衛門	千石	杉原四郎兵衛
千石	西尾藤三郎	千石	前田左助
五百六十石	戸田掃部	五百石	吉田七左衛門
五百石	三宅木工之助	五百石	八橋與吉
五百石	金森左兵衛	五百石	小出甚太郎
三百廿石	島田久太郎	三百五十石	櫻井庄之助
三百石	井戸忠右衛門	三百石	森次郎兵衛
二百石	本多藤五郎		

御小姓組 井上主計頭組

次郎兵衛一本
次郎右衛門
本
作

二千石	安藤治右衛門	千五百石	土屋權十郎
千石	西尾藤兵衛	千石	興津彦八郎
千五百石	伊丹藏人	千石	服部與十郎
七白石	仁賀保主馬	五百石	村瀬清藏
五百石	岡部庄九郎	九百石	高木善七郎
三百石	三宅宗兵衛	三百石	岡部惣六郎
三百石	多賀外記	三百石	川勝主膳
三百石	井上次兵衛	二百五十石	酒井作兵衛
二百石	本多次郎兵衛	二百石	川窪仁兵衛
百五十石	井田新八郎		

小十人組 井上主計頭組

七白石	大森半七郎	五百石	小栗平吉
五百石	石谷十藏	百五十石	小栗助十郎
二百石	石野傳八郎	二百石	宇津野九郎右衛門
百石	須藤孫四郎	百石	部屋住美濃部權兵衛

御書院番 永井信濃守組

二千二百石	天方主馬	二千石	村上源助
二千石	赤井豐後守	千四百石	柘植三四郎
千石	赤井六兵衛	千石	石丸勝三郎
千石	伏屋新助	千石	跡部民部
千石	村越七郎左衛門	千石	曾我喜太郎
千四百石	猪子治左衛門	千石	三好助九郎
九百石	水野因幡守	五百石	荒川右馬助
五百石	稻生次郎左衛門	五百石	古田兵九郎
三百石	長崎彌左衛門	三百石	柘植左衛門
三百石	設樂三左衛門	五百石	中坊長兵衛
五百石	赤井五郎作		
御小姓組 永井信濃守組		二千石	木造三郎右衛門
四千三百石	永井傳十郎	千五百石	岩瀬善右衛門
千七百石	鵜殿新七郎		

跡部民部一本ふ二
千五百石敷と注あり

中坊長兵衛一本ふ
三千石敷と注あり

木造一本ふ三郎左
衛門ふ作る

千拾石	松平筑後守	千石	鈴木久右衛門
五百石	榎村孫七郎	五百石	長田兵吉
五百石	中山内記	三百石	倉橋宗三郎
二百石	戸田七内	二百石	前波久三郎
二百石	永井奎之助	二百石	榎村孫九郎
三百石	岩村市兵衛	二百石	長崎久太郎
二百石	小林長五郎		
小十人組 永井信濃守組		四百石	小林權平
五百五十石	長坂血鎧九郎	二百石	山本四兵衛
三百石	加藤市六郎	百五十石	曲淵源次郎
百五十石	曲淵清藏	百石	山本辰之助
百石	横山源助		
百石	栗原七郎兵衛		
御書院番 青山大藏少輔組		二千百石	山田彦八郎
三千石	大久保四郎左衛門		

二千石	庄田小左衛門	二千石	酒井作右衛門
二千石	市橋三四郎	千七百五十石	馬場三郎左衛門
千石	三宅半七郎	千石	松田善右衛門
千石	朽木與五郎	千石	伊丹因幡守
千石	堀 織 部	千石	加藤 作 内
千石	松平作十郎	八百五十石	大久保牛之助
八百石	長野次郎兵衛	七百石	東條伊兵衛
五百石	井戸左馬助	二百七十石	松平甚三郎
三百石	大久保半右衛門	三百石	佐藤長兵衛
御小姓組 青山大藏少輔組			
二千石	永見新右衛門	千五百石	服 部 中
千石	加藤源太郎	千石	内藤金左衛門
千石	青山作十郎	六百石	水野小十郎
六百石	戸田半平	六百石	岡田内記
五百石	島喜太郎	五百石	内藤市之丞

五百石	北條新藏	五百石	中川牛之助
四百石	細井喜三郎	三百石	後藤清三郎
三百石	小栗又兵衛	三百石	大久保彦十郎
二百石	久貝八兵衛	二百石	水野金十郎
二百石	若林兵九郎		
小十人組 青山大藏少輔組			
五百石	美濃部八藏	四百石	小林新平
三百石	藁科孫九郎	二百五十石	奥山茂左衛門
二百石	比企次左衛門	二百石	酒依喜左衛門
二百石	梶 金 平	二百石	美濃部七兵衛
百五十石	松平佐内	百五十石	杉原七十郎
御書院番 松平右衛門大夫組			
二千石	川口久助	二千石	野一色頼母
二千石	水野太郎作	二千石	石尾七兵衛
千五百石	神尾市左衛門	千石	松平志摩守

千石	花房右馬助	千石	本多丹後守
千石	三淵縫殿助	千石	川口茂右衛門
千石	奥山次右衛門	千石	堀右衛門太郎
千石	牧野主水	八百五十石	大久保源三郎
七百五十石	津金助之進	五百石	星合采女
五百石	川勝太郎兵衛	五百石	蟠川次郎左衛門
五百石	花房勘右衛門	四百石	加藤庄兵衛
二百石	中山六左衛門	二百石	高木主膳
二百石	小倉十兵衛		
御小姓組 松平右衛門大夫組			
二千石	水野清六郎	千二百石	山上文七郎
千石	杉浦備前守	千石	松平隼人正
千石	甲斐庄傳八郎	千石	日下部權九郎
千石	榊原隼之助	七百石	西尾小左衛門
五百石	内藤六十郎	五百石	渡邊久左衛門

杉浦一本に
松平に作る

三百石	戸田半十郎	三百石	坪内半三郎
三百石	黒川與兵衛	三百石	富永甚三郎
三百石	牟禮万五郎	三百石	池田佐助
三百石	水野九右衛門	三百石	榊原兵左衛門
二百五十石	貴志助兵衛	二百石	榊原善九郎
二百石	小栗權兵衛	二百石	安藤市郎兵衛
小十人組 松平右衛門大夫組			
五百五十石	山下清藏	二百廿石	伴作平
二百石	戸張山三郎	百五十石	木村彦八郎
百石	星合伊左衛門	百石	青木彦兵衛
百石	富永孫六郎	百石	原田權右衛門
御書院番 板倉内膳正組			
四千石	沼兵右衛門	三千石	柴田筑後守
三千石	小堀九郎兵衛	三千石	近藤登之助
三千石	能勢治左衛門	二千石	内藤掃部

千五百石	能勢小十郎	千石	岡部大和守
千石	島四郎左衛門	千石	能勢惣右衛門
千石	近藤勘右衛門	千石	詩田數馬
五百五十石	小栗仁右衛門	五百石	別所主水
五百石	堀豐前守	五百石	松倉甚兵衛
五百石	大島瀨兵衛	三百石	鈴木權之助
三百石	中川左平太	二百石	青木又四郎
四百卅石	堀田助左衛門		
御小姓組			
千石	板倉内膳正組	千石	村越清次郎
九百廿石	牧野織部	六百石	永田權八郎
五百石	鈴木友之助	五百石	横田内匠
四百石	大藪新八郎	四百石	小出左馬助
三百石	彦坂平六郎	三百石	本多八十郎
三百石	石丸權六郎	二百石	丸山左兵衛
三百石	井出甚之助		

二百石	伊藤助十郎	二百石	牧野六兵衛
二百石	永田三十郎	二百石	淺岡權左衛門
小十人組			
四百五十石	板倉内膳正組	三百七十石	中根喜藏
三百七十石	内藤左七郎	二百石	鈴木兵左衛門
二百石	青木久左衛門	百五十石	鈴木三郎九郎
百五十石	松野勘平	百五十石	大木喜兵衛
百石	西尾善左衛門		
	内田勘右衛門		
御書院番			
千石	秋元但馬守組	二千石	牧野傳藏
千石	内藤市正	千石	妻木彦右衛門
千石	一尾淡路守	千石	下曾根三十郎
千石	佐々權兵衛	千石	眞田長兵衛
千石	別所左近	千五百石	遠山藤四郎
千石	新庄内匠	七百日	兼松又四郎
八百石	日根野長五郎		

千石	三浦權六郎	五百石	佐々三郎四郎
五百石	池田權之助	五百石	土方久兵衛
三百石	佐久間八左衛門	二百石	日根野外記
二百石	溝口五郎左衛門	二百石	木造七左衛門
御小姓組			
	秋元但馬守組		駒木根長十郎
千五百石	村上三十郎	七百石	成瀬吉平
五百石	酒井内記	五百石	長谷川半右衛門
五百石	山田與左衛門	五百石	山岡新太郎
五百石	服部三右衛門	五百石	和田庄之助
五百石	諏訪隼人	二百石	門奈宗兵衛
二百石	近藤小十郎	二百石	
小十人組			
	秋元但馬守組		本目權十郎
二百石	外山忠三郎	二百石	神保彌兵衛
二百石	青木五郎右衛門	百五十石	建部八郎右衛門
百五十石	曲淵十左衛門	百石	

百石	小島孫七郎	百石	廣戸半左衛門
百石	内藤四郎兵衛		
御鑑奉行衆			
千石	大久保彦左衛門	千石	若林和泉守
諸道具奉行衆			
三千百九十石	佐藤勘右衛門	千五百石	土方宇右衛門
千石	妻木吉左衛門	七百石	設樂市左衛門
五百石	青木五左衛門	二百石	菅沼三五郎
玉藥奉行衆			
五百石	井上外記	五百石	田付四郎兵衛
御幕奉行衆同心二十八			
二百石	加藤久大夫		岸長右衛門
御數寄屋坊主			
三百石	周齋	百五十石	笑雲
百五十石	宗丹	百五十石	宗傳
		百五十石	宗齋
		百五十石	笑仁

御時計坊主

文齋

御數寄屋七人

同水汲六人

五百石

福阿彌

齋阿彌

御廣間坊主廿人

六尺二人

寄合衆

三千石

神尾刑部少輔

千五百石

大岡兵藏

千五百石

朝比奈彌太郎

千五百石同心廿人

加藤伊織

千五百石

岡部主水

二千石

瀧川左内

三千五百石

渡邊吉右衛門

千石

池田圖書

千石

肥田主水

四百五十石

大河内平十郎

五百石

小幡勘兵衛

五百石

本多百助

部屋住

和田五助

五百石

武藤理兵衛

御勘定衆

六百石

大久保六右衛門

五百石

杉田九兵衛

二百石

下島市兵衛

二百石

武藤理兵衛

一本木多百助の前に森川庄九郎の名を加ふ

百石

井田三十郎

百石

能勢四郎右衛門

御蔵方

八百石

諏訪部惣右衛門

二百石

諏訪部源次郎

三百石

桑島彌六郎

目付衆

二百石

芝村左平太

百五十石

實方五平次

百五十石

齋藤勘右衛門

百五十石

齋藤次兵衛

御弓頭衆

二千五百石

御持弓與力十騎同心五十五人

内藤外記

三千石

歩行同心五十人

久永源兵衛

二千石

與力二十騎同心五十人

安部四郎五郎

千石

與力十騎同心二十人

太田善太夫

五百石

同斷

布施孫兵衛

御鐵炮頭衆

三千三百石

御持筒歩同心五十人

高木九兵衛

五千石	御持筒與力五騎同心廿五人	横田甚右衛門
三百石	與力十騎同心五十人	横田三郎兵衛
五千石	與力十騎同心五十人	久世三四郎
二千石	同斷	永井吉左衛門
五百石	同斷	永井清左衛門
六千五百石	同斷	坪内惣兵衛
	步行同心五十人	坪内喜太郎
二千石	同斷	加藤喜之助
千五百石	與力十騎同心三十人	山田十太夫
三千石	同斷	井上太左衛門
二千石	同斷	島田右京
五百石	青山大藏少輔御預鐵砲 歩同心百人	淺井半兵衛
御鳥見衆		
佐藤傳助	佐藤清兵衛	澤長左衛門

半右衛門一本ニ半左衛門に作る

尾崎新六郎	桑田孫六郎	大原甫助
水野半兵衛	多田庄左衛門	林半右衛門
樋口五郎右衛門	田澤庄兵衛	渡邊源左衛門
福田藤右衛門	飯高彌十郎	若林金十郎

同廿八日 公御上落トノ江戸城御首途

將軍家ヨリ道中御機嫌伺ノ爲三浦志摩守正次ヲ供奉セシメ玉ヒ京都ニ至リ江戸ニ歸御機嫌好御入洛旨申上ル道中御旅館ヨリ毎日繼飛脚ヲ以テ御機嫌能旨ヲ申上ル

六月廿日 公御入洛 將軍家ヨリ御機嫌伺ノ爲ニ川勝信濃守ヲ京都ニ遣サル 御返答爲入洛見舞被差越川勝信濃守早々被入念之段欣悅之至候委曲相含口上候也恐々謹言

六月廿日 御諱

大樹

七月十一日今日 將軍家御上落トノ江戸城 出御有ケレハ驛路ノ道橋ヲ修シ山ヲ平ケ川ニ舟橋ヲ渡シ所ヤノ御旅館修理掃除等守護城主心ヲ盡シ是ヲ營ム御饗應美ヲ盡ス十一日ニハ神奈川ニ着御命ニ依テ道三玄鑑及德隣法眼諸醫ノ首トノ道中藥ヲ求メハ貴賤ヲ撰ハス貧福ヲ問ハス病人ヲ療ス 十三日藤澤 十四日雨ニテ御滯座 十五日小田原御番城也 十六日

三島此所一日御滯座 十八日清水 十九日駿州久能山東照官へ御參詣御裝束 供奉ノ面々モ各裝束此日駿府ノ城ニ 入御城主中納言忠長卿饗應 廿日田中城着御 廿一日忠長卿ヨリ大井川浮橋ヲ渡サレケレハサシモノ難所モ平地ヲ行カ如クニテ供奉ノ面々通路自由ヲ得タリ然レモ 將軍家ノ御旨ニハ叶ハス凡大井川箱根ハ關東第一ノ難所要害ノ地ナリ輒ク舟橋ヲ掛ラル、一本意ニ非スト云リ今日掛川城ニ 着御忠長卿ノ臣朝倉筑後守宣正居城ニテ忠長卿ヨリ饗應アリ 廿二日濱松城主高力攝津守忠房美膳ヲ獻ス 廿三日吉田城主松平主殿頭忠利美膳ヲ獻ス嫡子五郎八郎御前ニ召御腰物貞宗ヲ賜フ 廿四日岡崎城主本多伊勢守忠利美膳ヲ獻ス 廿五日熱田 廿六日桑名城主松平河内守定行美膳ヲ獻シ一日御滯座 廿八日龜山城主三宅越後守康信饗應ス 廿九日水口此所一日御滯座 八月朔日膳所城主菅沼織部正定房美膳ヲ獻ス 二日將軍家御入洛供奉之面々旅衣ヲ改美服ヲ着ス在京ノ諸大名御迎ニ出京師ノ町人御廟野ニ出テ拜謁ス都鄙遠境ノ老若男女山野ニ滿チ家屋ニ溢レ追分ヨリ山科邊二條ニ至リ群集シテ拜見ス二條ノ城ニ入セラレ 公ニ御對面暫ク此ニ御座

八月九日 公淀城ニ渡御城中上覽アリ城主松平越中守定綱ヲ召テ城郭早ク造畢シ殿閣ノ經營郭外ノ構悉御旨ニ應ス今度 將軍家御在京ノ中御旅館タルヘキ旨ヲ命セラレ御腰物暑衣黃金ヲ賜ル定綱モ御腰物綿ヲ獻ス 將軍家此月中旬淀城ニ渡御定綱ニ御腰物暑衣黃金ヲ賜

一本に前の貞宗を
貞光とす後の貞宗
を貞次とす

ル定綱モ御腰物綿ヲ獻ス此城ニ九月中旬迄 御滯座アリ

十八日 公大政大臣ニ昇進シ給元右大臣
從一位

將軍家從一位左大臣ニ叙任シ給元正二位
內大臣

勅使阿野中納言并頭中將參向アリ

十九日 叙任之次第

駿河中納言忠長卿叙從二位任權大納言元從
三位

尾張中納言義直卿叙從二位任權大納言元從
三位

紀伊中納言賴宣卿叙從二位任權大納言元從
三位

水戸宰相賴房卿叙從三位任權中納言元正四位
下

松平筑前守利常本氏前田氏叙任從三位權中納言元參
議

松平陸奥守政宗本氏伊達氏叙任從三位權中納言元參
議

松平薩摩守家久本氏島津氏叙任從三位權中納言元參
議

松平伊勢守忠昌秀康男叙任參議正四位下元侍
從

松平官内大輔忠雄本氏池田氏叙任參議正四位下元侍
從

松平下野守忠本氏浦生氏叙任參議正四位下元侍
從

伊勢一本ニ伊豫に
作る

細川忠利ノ下二本
二叙從四位下ノ五
字ナシ
光政ノ性元四位ハ
誤ナルヘシ

佐竹右京大夫義宣叙任從四位下權中將元侍

森美作守忠政任左中將元侍

松平長門守秀就本氏任少將元從四位下侍從

細川越中守忠利叙任從四位下少將元侍

松平新太郎光政本氏叙任從四位下少將元四位侍從

上杉彈正少弼定勝任少將元四位侍從

京極若狹守忠高叙任從四位下少將元侍

松平越前守忠宗伊達政宗嫡子叙任從四位下少將元侍

藤堂和泉守高虎任少將元侍

井伊掃部頭直孝任少將元侍

吉良若狹守義冬叙任從五位下侍從元無官

松平出羽守直政秀康卿三男叙任從四位下侍從元從五位

佐竹修理大夫義隆叙任從四位下侍從元無官

伊達遠江守秀宗政宗次男叙任從四位下侍從元從五位

京極丹後守高廣叙任從四位下侍從元從五位

松平土佐守忠義本氏山内任侍從元四品

堀尾山城守忠晴任侍從元四品

淺野但馬守長晟任侍從元四品

加藤肥後守忠廣叙任從四位下侍從

松平石見守輝澄池田輝政四男任侍從元四品

松平中務大輔忠知行蒲生秀行次男任侍從元四品

加藤左馬助嘉明任侍從

松平右衛門佐忠之本氏黑田叙任從四位下侍從元諸大夫

鍋島信濃守勝茂叙任從四位下侍從元諸大夫

松平下總守忠明叙任從四位下侍從元諸大夫

本多美濃守忠政叙任從四位下侍從元諸大夫

森右近大夫忠廣叙任從四位下侍從元五位

松平阿波守忠英本氏蜂須賀任侍從元四品

酒井雅樂頭忠世叙任從四位下元諸大夫

土井大炊頭利勝叙任從四位下元諸大夫

松平周防守康重本氏叙四品元諸大夫

松平大和守直基秀康卿叙四品元諸大夫

有馬玄蕃頭豐氏叙四品元諸大夫

松平河内守定行叙四品改隱岐守

松平土佐守直久秀康卿叙四品

松平式部大輔忠政本氏叙四品元諸大夫

松平右京大夫政綱池田輝政五男叙四品元諸大夫

生駒小法師高俊叙任四品壹岐守元無官

南部信濃守利直叙四品元諸大夫

寺澤志摩守廣高叙四品元諸大夫

水野日向守勝成叙四品元諸大夫

松平丹波守康長本氏叙四品元諸大夫

藤堂大學頭高次高虎嫡叙四品元諸大夫

永井信濃守尙政叙四品元諸大夫

井上主計頭正就叙四品元諸大夫

黑田勘解由長興長政二男叙任從五位下甲斐守

黑田官兵衛高政長政三男叙任從五位下東市正

松平古七郎輝興池田輝政六男叙任從五位下右近大夫

松平刑部定賴久松定行男叙任從五位下河内守

小出吉親吉政次男叙任從五位下對馬守

秋月種春叙任從五位下長門守

木下利當叙任從五位下淡路守

稻垣平右衛門重綱叙任從五位下攝津守

大久保四郎左衛門忠成忠世三男叙任從五位下玄蕃頭

稻垣藤七郎重太重綱之弟叙任從五位下若狹守

久留島通春叙任從五位下丹波守

喜多見五郎左衛門勝重攝津守朝忠男叙任從五位下若狹守

三宅康盛叙任從五位下大膳亮

有馬康純叙任從五位下藏人頭

青木源五重兼叙任從五位下甲斐守

堀直政叙任從五位下采女正

秋田秀信叙任從五位下隼人正

杉浦市十郎正友叙任從五位下越後守 後内藏允彌市郎親以二男

桑山一玄叙任從五位下修理亮

九月五日天野長信叙任從五位下豐前守千石加賜アリ

中官ニ附サセラル 同七年七百石加へ賜ヒ禁裏へ附サセラル

同六日二條ノ城ニ 行幸前曉ヨリ黎明ニ至テ細雨頻ニ洒ク陰晴卯ノ刻ニ及テ快晴ニナル

大殿祭ハ昨日ノ夜諸ケノ御所ニ於テ祭主神祇權少副大中臣友忠勤之役者ハ主殿寮掌燈ヲ供シ木工寮結灯臺ヲ獻シ掃部寮小半疊三疊薦三枚ヲ設ク

備ノ御所ハ檜皮茸也御端間ニ御車寄アリ庭上ニ舞臺ヲ飾左右ノ樂屋アリ築山ニハ珍樹ヲ植並へ泉水ニハ加茂川ヨリ水ヲ掛ケ鈎殿后官ノ局ニ至ルマテ古實ヲ考百工心ヲ碎キ丹青手ヲ

盡ス其華麗ナル事北山殿應永十五年室町殿永享九年關白秀吉公天正十五年ノ行幸ニハ今ノ結構美麗ハ百倍セリ諸人目馴サルコトヲ見聞馴サル事ヲ聽ク鳳輦牛車ノ品々年久ク廢タレハ

知ル人希ニ攝家花族ノ説區々ナリ諸司代板倉侍從仰ヲ蒙リ諸家ノ記録ヲ糺明シ時宜ヲ考へ大抵秀吉公聚樂ノ 行幸ノ儀式ニ准セリ 行幸ノ兼日ヨリ辻固ノ役ヲ定ラル凡ソ四足ノ

御門ヨリ總門ニ至六町一段總門ヨリ二條ノ城東御門限ニ至テ十七町九段二間合二十四町九間辻堅ノ烏帽子着諸大名ニ課テ是ヲ役ス 領知ノ多ニヨル 總門ノ内ハ駿河忠長卿尾張義直卿紀伊賴宣卿水戸賴房卿ノ家人是ヲ固ム其列藩次ヲ亂サス威儀嚴重也小路毎ニ弓鐵炮鎗長刀ヲ備テ是ヲ堅ム

禁中御留守ノ御番武家ヨリ八人ヲ定ラレ各家人ヲ召具シテ御築地ノ外ニ伺候シ門々ヲ警固ス

行幸ノ日諸大名辻堅兼日ヨリ被仰付方

駿河大納言 尾張大納言 紀伊大納言

水戸中納言 松平筑前守 松平薩摩守

松平陸奥守 松平伊豫守 松平下野守

松平宮内少輔 松平長門守 細川越中守

佐竹右京大夫 森 美作守 生駒壹岐守

京極若狹守 上杉彈正少綱 松平新太郎

京極丹後守 松平阿波守 淺野但馬守

加藤肥後守 鍋島信濃守 堀尾山城守

松平土佐守	藤堂和泉守	松平右衛門佐
加藤左馬助	寺澤志摩守	稻葉彦六郎
有馬玄蕃頭	南部信濃守	立花飛驒守
伊達遠江守	九鬼長門守	松平山城守
松平飛驒守	本多甲斐守	真田伊豆守
德永左馬助	一柳監物	松浦肥前守
有馬左衛門佐	加藤出羽守	伊達修理亮
宗對馬守	古田兵部少輔	中川内膳正
石川主殿頭	小出大和守	松平丹波守
井上主計頭	秋田右京亮	永井信濃守
淺野采女正	丹羽五郎左衛門	松平出羽守
酒井讚岐守	安藤右京亮	
警固ノ者二千六百十二人 付一万石二 付二人宛		
井伊掃部頭	本多美濃守	小笠原右近大夫
酒井雅樂頭	土井大炊頭	松平河内守

水野日向守	松平式部大輔	堀丹後守
牧野駿河守	本多伊勢守	戸田左門
岡部内膳正	松平周防守	
烏帽子着百五十七人 付一万石二 付一人宛		
脇坂淡路守	龜井大力	松倉豐後守
京極修理亮	松平大和守	金森出雲守
織田刑部少輔	小出信濃守	松平石見守
松平右京大夫	保科肥後守	木下右衛門大夫
山崎甲斐守	秋月長門守	島津右京大夫
松平將監	本多大隅守	大久保新十郎
木下官内少輔	毛利伊勢守	大村松千代
戸川肥後守	松平古七郎	桑山加賀守
本多因幡守	分部左京亮	遠藤但馬守
松平和泉守	土方掃部頭	松平土佐守
別所豐後守	相良左兵衛	土方丹後守

大田原備前守	日根野織部正	織田河內守
平岡牛右衛門	織田丹後守	織田武藏守
小出大隅守	池田越前守	三浦左馬助
立花主膳正	前田大和守	建部三十郎
伊藤丹後守	市橋伊豆守	久留島右衛門
桑山刑部少輔	桑山左衛門佐	三宅越後守
細川玄蕃頭	五島淡路守	
人數千六百五十三人 <small>十一万石ニ付</small>		
本多飛驒守	片桐出雲守	菅沼織部正
本多下總守	杉原伯耆守	水野隼人正
戶田因幡守	長谷川式部少輔	片桐主膳正
谷出羽守	溝口伊豆守	溝口伯耆守
青木民部少輔	高田攝津守	松平右衛門大夫
内藤伊賀守	稻葉丹後守	青木大藏少輔
板倉内膳正	酒井阿波守	京極主膳正

秋元但馬守

松平越中守

板倉周防守

禁裏四ツ足ノ御門ヨリ二條御城東御門限ニ至二十四町九間也 右之間數千四百四十九間

人數三千三百二十七人
二万石

行幸ノ役者千六百六十三人
一万石

小路當ノ人數
付十万人ニ

小路四十一箇所十方石ヨリ上三十人宛

供奉ノ諸公家騎馬ノ龍蹄悉武家ヨリ調進
鞍置馬

十疋	松平筑前守	六疋	松平陸奥守
六疋	鍋島信濃守	五疋	尾張大納言
五疋	紀伊大納言	五疋	駿河大納言
六疋	松平下野守	五疋	松平伊豫守
五疋	松平官内大輔	五疋	加藤肥後守
五疋	松平右衛門佐	四疋	淺野但馬守
四疋	細川越中守	三疋	水戸中納言
三疋	藤堂和泉守	三疋	上杉彈正少綱

三疋	島津薩摩守	三疋	松平新太郎
二疋	井伊掃部頭	二疋	佐竹右京大夫
二疋	堀尾山城守	二疋	有馬玄蕃頭
二疋	松平阿波守	二疋	松平土佐守
二疋	加藤左馬助	二疋	松平下總守
二疋	生駒小法師	二疋	森美作守
二疋	本多美濃守	三疋	松平長門守
壹疋宛			松平飛騨守
松平河内守	南部信濃守		本多甲斐守
伊達遠江守	小笠原右近大夫		寺澤志摩守
真田伊豆守	水野日向守		堀丹後守
岡部内膳正	松平出羽守		一柳監物
九鬼長門守	德永左馬助		京極丹後守
松平山城守	京極若狹守		戸田左門
松平周防守	溝口伯耆守		加藤出羽守
	池田備中守		

古田兵部少輔	小出大和守	立花飛彈守
伊東修理大夫	松浦備後守	有馬左衛門佐
稻葉彦六	松平式部少輔	石川主殿頭
阿部備中守	酒井讚岐守	井上主計頭
永井信濃守	安藤右京亮	丹羽五郎左衛門
松平丹後守	牧野駿河守	脇坂淡路守
本多伊勢守		

以上大名七拾人馬數百四拾疋
將軍家御迎トノ參 内ノ行粧
昵近ノ公卿殿上人各前驅

行列奉行	堀因幡守	官城甚右衛門
堀田勘左衛門	内藤久五郎	稻垣若狹守
三枝宗四郎	加々瓜民部少輔	永井監物
渡邊半四郎	豐島主膳	今井傳四郎
永田勝左衛門	長谷川四郎兵衛	堀三右衛門

供奉ノ大名騎馬衣裳美ヲ盡シ馬具金銀ヲ鏤メ厚總ノ鞆也各長刀持烏帽子着馬副白丁傘持ヲ召具ス

行列

雜色十人右二行烏帽子上下

諸司代板倉周防守侍從重宗黒裝束布衣二人壹行

次諸大夫二行一日晴ヲ着ス騎馬

左

居飼壹人騎馬

木村孫八郎

御厩舍人壹人

松平和泉守家乘

小笠原右近大夫忠政

松平周防守康重

本多下總守俊次

松平河内守定頼

右

居飼壹人騎馬

桑島孫六郎

御厩舍人壹人

松平山城守忠國

松平飛驒守忠昌

本多伊勢守忠利

牧野駿河守忠成

松平豐後守

松平對馬守忠豐

加藤式部少輔明成

本多甲斐守政朝

岡部内膳正長盛

菅沼織部正定秀

南部山城守重直

鍋島紀伊守直元

松平伊賀守忠晴

松平若狹守康信

水野和泉守

前田大和守利高

金森出雲守重頼

岡部美濃守宣勝

黒田甲斐守長政

畠山長門守

藤堂大學頭高次

有馬兵部少輔

淺野采女正長重

水野隼人正忠清

戸田左門氏鐵

京極修理大夫高政

寺澤兵庫頭堅高

水野紀伊守成言

松平左近大夫康次

戸田采女正氏信

堀兵部少輔直次

堀丹波守直寄

三宅大膳亮康盛

黒田市正清忠

織田丹後守

真田河内守信吉
 杉原伯耆守長秀
 稻葉民部少輔一通
 織田越後守尙長
 一柳監物直末
 松平石見守重綱
 松浦肥前守鎮信
 池田備中守長幸
 中川内膳正久盛
 德永左馬助壽昌
 木下右衛門大夫延俊
 來島越後守通春
 毛利伊勢守高直
 谷出羽守政則
 遠藤伊勢守慶利

秋田河内守俊季
 溝口伯耆守宣直
 織田美作守高重
 九鬼長門守嘉隆
 大田原備前守政清
 伊東修理大夫祐慶
 小出大和守三尹
 石川主殿頭忠總
 稻葉淡路守紀通
 加藤出羽守泰興
 佐久間大膳亮
 德永下總守
 青木甲斐守重兼
 片桐石見守貞昌
 平野遠江守長泰

片桐主膳正貞隆
 小出對馬守吉親
 木下官内少輔利房
 島津右馬頭忠興
 分部左京亮光信
 伊東若狹守
 蒔田權之助
 五島淡路守盛利
 一柳丹後守直重
 本多飛驒守成重
 立花主膳正宗種
 溝口出雲守宣直
 遠藤但馬守常利
 土方丹後守雄氏
 溝口伊豆守善勝

本多因幡守政武
 山崎甲斐守家治
 相良左兵衛尉長每
 片桐出雲守高俊
 市橋伊豆守政重
 長谷川式部少輔
 竹中丹後守
 一柳美作守直利
 桑山左衛門佐
 松倉長門守重次
 池田出雲守長常
 戸川土佐守
 佐久間信濃守
 小出大隅守三尹
 古田兵部少輔信勝

桑山加賀守貞明

相良壹岐守賴寬

堀田兵部少輔

關兵部少輔

井上淡路守

脇坂主水正安信安元弟

秋月長門守種春

細川玄蕃頭興元

石河伊豆守貞政

竹中筑後守

脇坂淡路守安元

小堀遠江守政一

横山土佐守

日根野織部正吉明

竹中采女正重貞

内藤豊前守信照

那須美作守

三浦監物義次

土方掃部頭雄正

水野河内守

仙石大和守久隆忠政弟

佐久間河内守

川勝信濃守

三好越後守

朽木兵部少輔

加々瓜民部少輔忠隆

堀因幡守

松平伊賀守忠晴

有馬藏人

京極主膳正高通

河一本三川ニ作ル

小堀遠江守政一本ニイニ小堀遠江守吉辰ト注アリ

高力左近大夫長房

土屋民部少輔利直

阿部修理亮正澄

井上河内守正利

本多能登守忠義

藤堂左兵衛尉

成瀬伊豆守

本多將監

堀市正

田中主殿頭

神尾宮内少輔

三浦志摩守正次

小笠原壹岐守忠知

水野攝津守

酒井主膳正

秋田隼人正

島田刑部少輔

小笠原出雲守

佐野左京亮

高林河内守

松平兵部少輔

酒井加賀守

池田帶刀

朽木民部少輔植綱

服部玄蕃頭

松平伊豆守信綱

阿部豊後守忠秋

安藤右京進重長

内藤伊賀守忠重

稻葉丹後守正勝

井上主計頭正就

永井信濃守尙政

松平越中守定綱

酒井讚岐守忠勝

小舎人

小舎人

小舎人

小舎人

雜色十五人

雜色十五人

既橋侍從 酒井雅樂頭束帶 騎馬白張相從

白張十人

白張十人

番頭四人

番頭四人

右八人 烏帽子白張 但シ平絹

衣 平絹色紅 裏アリ

帶刀三拾二人 二行 歩行烏帽子淺黄ノ狩衣ニ金箔ヲ以紋所ニ唐花ヲ繪カキ金鬘斗付ノ太刀ヲ帶糸鞋ヲ看ス

三好庄左衛門尉

能勢治左衛門尉

北條久太郎

長谷川縫殿助

内藤主馬助

内藤傳左衛門尉

真田長兵衛尉

森九郎左衛門尉

花房勘右衛門尉

跡部民部

は

能勢小十郎

駒井次郎左衛門尉

加藤勘右衛門尉

永見新右衛門尉

西尾主馬助

野一色外記

新庄甚助

瀧川三九郎

林丹波守

多賀左近

井上源助

大久保源二郎

桑山内匠

佐藤勘右衛門尉

安藤治右衛門尉

川口長三郎

德山五兵衛尉

加藤平内

松平甚兵衛尉

一色左兵衛尉

番長二人 御隨身騎馬衣冠褙平絹裏アリ單赤地金襴袴白唐綾裏アリ石帶胡籙負弓持絲鞋

井上清兵衛

秋山十右衛門

御長刀 御刀者

御引替牛二疋 紅絹ニ繩物着之掛牛面角以金濃紅ノ糸沓着淺黄ノ緒

御牛飼二人是ハ御引替ノ牛飼

權御隨身二人 左右ニ御沓ヲ持

御牛飼童子二人 髮ヲ下ケ作眉一人ハ御車ノ先一人ハ御轅ヲ

御車前後左右御供奉

布衣十二人 風折烏帽子狩衣紋紗也薄淺黃衣唐綾色紅裏也袴ハ萌黃色唐綾也糸鞋

御車副八人 襦冠

舍人二人 白張

御榻持一人 白張

御階持一人 白張

下薦御隨身六人 步行唐綾色萌黃金箔紋雁裏アリ袖單赤地金襴付大帷子袴唐綾色三人ハ赤地三人黃色繻紋アリ裏アリ石ノ帶糸鞋ヲ着

御傘 白張

烏帽子着三行 歷々三百人

御馬前後左右行列

居飼一人 烏帽子平袍直垂上下生色紫孔鷄

御厩舍人一人 烏帽子平袍直垂上下生色薄萌黃

副舍人 細井左次右衛門

副舍人 西川權十郎

御馬副八人 衣冠襦袢薄平紋三葉柏裏アリ單萌黃金襴袴白生裏アリ

後騎一行 一説供奉長刀持一人烏帽子着四人冠副舍人二人並白張十八次諸大夫二人騎馬

一本にヨリテ案スルニ此長刀ヨリ居飼マテ尾張ノ行列ナリ

長刀

布衣六人 左右ニ列ン前驅アリ襦冠

尾張大納言義直卿 黒裝束騎馬

馬副四人

副舍人二人 直垂

白張十人

傘持壹人

家臣諸大夫

成瀬隼人正 赤裝束騎馬 白張相從

竹腰山城守 同上

居飼壹人

同斷

紀伊大納言賴宣卿 黒裝束騎馬

家臣

安藤帶刀

水野淡路守

同斷

駿河大納言忠長卿 黒裝束騎馬

家臣

朝倉筑後守

鳥居土佐守

同斷

水戸中納言賴房卿 黒裝束騎馬

家臣 村瀬左馬助

中山備前守

長刀

布衣六人

仙臺中納言正宗 黒裝束騎馬

馬副四人

副舍人二人

白張

居飼一人

傘持一人

同斷

加賀中納言利常

薩摩中納言義久

越前宰相忠昌

備前宰相光政

會津宰相忠卿

中少將侍從三十二人 二行 黒裝束騎馬

一本にヨリテ案ス
ルニ此長刀ヨリ案
持マテ仙臺ノ行列
ナリ
一本副舍人ニ白丁
ト注シ白張ヲ除
居飼一本位階ニ作
ル下同

光政一本ニ忠雄數
ト注セリ及一本ニ
八利隆トス

各長刀

布衣八某

馬副八

白張八

傘持共

左

右

津山 美作中將 森美作守忠政

長門少將 毛利長門守秀就

若狹少將 京極若狹守忠高

米澤少將 上杉彈正大弼定勝

豐浦宰相 毛利甲斐守秀元

彦根少將 井伊掃部頭直孝

柳川侍從 立花左近將監宗茂

大野侍從 松平出羽守直政

上山侍從 松平中務大輔忠知

丹後侍從 京極丹後守高知

織田侍從 出雲守信友

安藝侍從 淺野但馬守長晟

肥後侍從 加藤肥後守忠廣

秋田中將 佐竹右京大夫義宣

豐前少將 細川越中守忠利

仙臺少將 伊達越前守忠宗

因幡少將 池田新太郎光政

白川宰相 丹羽五郎左衛門長重

美作侍從 森右近大夫忠廣

白杵侍從 稻葉能登守典通

山崎侍從 家次

阿波侍從 蜂須賀阿波守忠英

伊達侍從 伊達遠江守秀宗

秋田侍從 佐竹修理大夫義隆

對馬侍從 宗對馬守義智

出雲侍從 堀尾山城守忠晴

土佐侍從 山内土佐守忠義

筑前侍從 黒田右衛門佐忠之

肥前侍從 鍋島信濃守勝茂

松山侍從 加藤左馬頭嘉明

郡山侍從 松平下總守忠明

姫路侍從 本多美濃守忠政

四品十一人 二行 長刀烏帽子着四人 白張二人 馬副四人 傘持

松平土佐守成政 改但馬守直富

松平大和守直基

有馬玄蕃頭豐氏

松平右京大夫政綱池田

南部信濃守利直

生駒壹岐守高俊

松平丹波守康重

寺澤志摩守廣高

水野日向守勝重

松平隱岐守定勝

松平式部大輔忠次 榊原

次ニ傘五十本

將軍家二條御殿御車寄ニテ 御乘車御裝束一日晴御襲紅二重織物御紋葵ノ丸色白表御袴朽葉唐織御紋窠霰也 扈從ノ人々從卒ニ至テハ其數ヲ不知馬上ノ裝束ハ色々四季ノ花鳥唐織浮紋縫箔蜀江ノ錦綾羅錦繡ヲヨソヲヒ馬具ハ金銀ヲ鏤メ障泥ハ虎豹ノ革鞞ハ皆厚總掛種々ノ色ヲ用タリ馬ノ沓皆眞紅ノ糸ニテ打太刀ハ金作ニテ光輝ク

禁中四足御門ノ北ノ方ニ於テ 下御此時殿上ノ方ヨリ關白殿以下庭上ニ下リ迎接シ一掛畢テ清涼殿ノ南階ニ昇ラセ給南東ノ縁ヲ退玉ヒ常ノ御所ニ參リ給ヒ 御肅禮中柱ノ西ニ御着座ニ獻ノ御祝儀アリ初獻

主上御盃 將軍家ニ是ヲ賜リ其御盃女中ニ巡流ニ獻同前

天酌是ヲ畧セラル常御參 内ハ三獻此時ハ二獻也祝禮終テ退去下御ノ所ニ於テ 乘車還御元ノ如ク二條ノ亭御車寄ニ於テ 下御還御行列同前

未刻 行幸前駟後乘ノ供奉人各一日晴束帶袍等常ノ如ク參議以上ハ唐織ヲ用ヒ中將以下ハ縫物或ハ箔ヲ用ニ衛府ノ輩弓箭ヲ帶シ上達部以下參會

行幸ノ期ニ臨テ南殿ノ御隔子ヲ上ケ關白諸下知アリ上卿 一條右大臣兼通 陣ニ召レ仰スルノ議アリ奉行職事 頭中將基音朝臣 兩局諸司ヲ候シ出納役者ニ催ス御留守ノ公卿ハ正親町三條中納言 實辨 在辨ハ

甘露寺 時長

主上南殿ニ 出御束帶御袍 黃御下襲 蘇御引 倍木 紅表御袴 白浮織 御殿ヨリ長橋御後南殿ニ

至リ筵道布毯ヲ敷關白 御裾ヲ取内侍 大納言典侍新内侍 劍璽ヲ持ツ陰陽頭賀茂友景反閉ヲ勤ム國司

奏ハ今度略セラレ鈴奏ハ少納言爲適朝臣着版ヲ奏ス

鳳輦ヲ御階間ニ寄セ左右ノ次將相副花山院宰相中將 好劍璽 ヲ役ス 一說ニ御劍ハ權中將元親朝臣御草鞋ハ右大辨業光

朝臣 鳳輦ニ 入御ノ後關白 御裾ヲ疊ミ入中門ノ外ニ於テ大將有ニ御綱仰御道 出御
 左衛門ノ陣御門東ノ洞院大路ヲ北へ行正親町小路ヲ西へ行堀川大路ヲ南へ行二條ノ亭ニ
 入御行程辻固ノ侍七千餘人皆青襖袴烏帽子ヲ着シ太刀ヲ持シ敷革ニ座ス敷革ハ悉ク虎豹熊
 ヲ以テシ綾羅ヲ縁トセリ道筋ニハ見物ノ貴賤男女五畿内ハ申ニ不及七道ノ遼遠ヨリ參リ集
 リ棧敷ノ疊一帖ヲ金子二兩ヲ以借トナリ
 行幸ノ御先 二行

左

伶人二十五人奏安城樂

太鼓白丁二人持之

鉦鼓白丁二人持之

烏帽子着二十五人素袍袴

白張二十五人

傘持二十五人

戸屋主一人烏帽子布直垂

掃部寮一人同斷

右

伶人二十五人

太鼓白丁二人持之

鉦鼓白丁二人持之

烏帽子着二十五人素袍袴

白張二十五人

傘持二十五人

御道具

内藏寮二人同斷

御倚子イヌ 白丁一人持之

毬伐箱 同斷

布毬箱 同斷

御草鞋箱 同斷

御靴箱 同斷

久杖 同斷

日給札シキヤ 同斷

切臺盤一脚同斷

臺盤三脚 同斷

燈臺二本 同斷

打敷二本 同斷

出納職忠朝臣豊後守赤装束騎馬

御藏民部丞右ノ御道具奉行ス

御藏官内丞

御藏正直

行幸行列

左

隼人兵士十人

右廿人烏甲赤衣袴絲鞋ヲ着戈ヲ持

隼人兵士十人

右

隼人正騎馬烏帽子狩衣ヲ着シ下襲也

左衛門府

尉 昌弘騎馬

佐 共綱清閑寺騎馬

左兵衛府

佐 宣順中御門騎馬

少納言爲適朝臣

五條隨身烏帽子着馬副布衣
雜色笠持等ヲ具セラル

左衛門督時直朝臣

西洞院

右大辨宰相業光朝臣柳原

十人ノ下二本ニ隼人拍子ト注セリ

中官權大夫通村朝臣中院

中納言光慶卿 日野

中納言共房卿 清閑寺

中納言實顯卿 阿野

中納言宣衡卿 中御門

中納言季繼卿 四辻イ敷

大納言宣季卿 今出川

大納言公益卿 西園寺

大納言總光卿 廣橋

新大納言光廣卿 烏丸イ日野

中官大夫實條卿 三條西

大納言公益卿 轉法輪イ三條

内大臣康道公 二條殿供奉ノ行列行啓ノ所ニ記

右大臣兼遐公 一條殿同斷

左

右

左大將教平卿鷹司

右供奉行粧 行啓ノ所ニ記

右大將忠家卿九條

次將左

次將右

中將雅胤朝臣 飛鳥井

中將元親朝臣 中山

中將季吉朝臣 滋野井

少將重秀朝臣 庭田

中將康胤朝臣 堀川

少將爲尙朝臣 冷泉

中將益俊朝臣 水無瀬

鳳輦 内豎 右庫持御 草鞋御筥ニ居

四府ノ駕輿丁先部四人 右近府沙汰人 八下座 四十猪熊座 六人以上白張ヲ着シ 鳳輦ヲ昇ク

御後二行

左

右

中將嗣良朝臣 高倉

少將高有朝臣 綾小路

中將爲賴朝臣 冷泉

少將公景朝臣 姉小路

少將親顯朝臣 北畠

少將言總朝臣 山科

頭中將基音朝臣 園

職事 宰相中將定好卿 花山院 一行

同 宰相中將實晴卿 西園寺

藤原經廣 勸修寺辨

小槻忠利 極蔭

安倍泰吉 倉橋

清原賢忠

藤原通規 鹽小路

荷田信次

藤原元展

賀茂以文

鴨祐信

藤原俊祇

秦元純

右兵衛府 一行

尉 生行

佐 綱房 万里小路

右衛門府

佐 永將朝臣 高倉右衛門

諸司行列 二行

左

右

陣官人柳田

陣官人戸島

右二人左右步行六位平絹袍關服帶劔

大外記中原師生

左大史官務孝亮

三行各步行

白丁十人

白丁十人

白丁十人

少外記生職

右大史英方

伴友忠

權少外記生友

左少史亮盛

主殿英勝

權少外記生慶

史生孝昌

内豎勝康

史生行時

左官掌氏房

主殿職則

史生宜

左官永昌

兵庫頭賢在

召使生重

召使亮行

修理職家次

大舍人生重

召扶亮

修理職重次

大舍人生久

大藏省
衛士四人

木工寮
仕人三人

御藏康善

使部一人

大工五人

將軍家ノ下二本ニ
一同ニノ三字アリ

諸司ノ白丁前駝十人宛三行殘ル白丁笠持等後ニ三行ニアリ

關白左大臣信尋公

近衛下襲唐織地黃綾菱表袴唐織地萌黃綾窠霞車

右車前後左右ノ供奉警固四人前駝ノ傘持十三人白丁十人諸大夫五人騎馬左三人右二人上臈隨身

四人行布衣二人警固二人牛飼一人居飼二人退紅一人

鳳輦四足ノ御門ニ至リ暫昇居奉ル神祇官祭主大麻ヲ捧ケ伶倫樂ヲ奏ス此時 大相國御東帶一日晴

御袍帶ノ如御下襲黃二重織物御紋御本丸ヨリ儲ノ御所ニ 出御シ給 將軍家儲ノ御所東ノ階

葵ノ丸也紫表御袴白唐織御紋窠霞ヲ下立中門ノ内北ノ方ニ候シ給 大相國御劍大澤中將是ヲ役ス御腰物大澤侍從是ヲ役ス

將軍家御劍吉良少將御腰物吉良侍從是ヲ役ス彦根少將姫路侍從郡山侍從御後ニ候ス酒井下

總守本多美作守太田采女正鳥居讚岐守以下廊下ニ候シ豫メ莖道布毯ヲ敷ク儲ノ御所ニ於テ

中山頭中將元親是ヲ奉行ニ出納是ヲ催ス鳳輦中門ニ至時次將立替 鳳輦過ル時各整屈ス 大相國 將軍家御警折 鳳輦南階ニ至時

大相國 將軍家本階ニ昇リ給

主上入御右大臣兼退鳳輦下御ノ時關白 御裾ヲ取御後ニ疊置退西ノ方ニ侍ス一說中務少輔泰重裾ヲ取奉

主上暫南面ニ立御 大相國 將軍家東南ノ縁ヲ歷給テ入座躰踞シ給フ

主上御前御目有簾中ニ 入御 大相國 將軍家本ノ如ク縁ヲ歷給テ入御厩橋侍從佐倉侍從

板倉侍從酒井讚岐守井上主計頭永井信濃守内外ノ事ヲ下知ス
行幸以前ニ行啓アリ御先供ノ女中衆

長柄

七十丁

釣輿

八十五丁

包輿

六十九丁

布衣

六十五人

烏帽子着

二百四十人

十德着

千百十人

右ハ中官御供女中衆ノ輿副駕輿丁也

其次

長柄

三十五丁

釣輿

四十七丁

包輿

二十五丁

布衣

四十人

烏帽子着

百十人

十德着

五百二十五人

右ハ女院御供女中衆ノ輿副并駕輿丁也

其次

長柄

四十七人

釣輿

五十七丁

包輿

三十六丁

布衣

四十五人

烏帽子着

百五十人

十德着

七百四十八

傘持白張ノ下二本
ニ階大夫衆各如此
トアリ

中官行啓供奉行列

武家諸大夫二十人各束帶一日晴騎馬三行

召具長刀持一人 兼袍袴烏帽子ナシ 烏帽子着三人

馬副三人 白張 傘持白張

左

水野遠江守

松平豐前守

三宅越後守

神尾刑部少輔

戸田因幡守

久貝因幡守

板倉内膳正

高力攝津守

右

松平肥前守

松平出雲守

安部攝津守

皆川志摩守

丹羽式部少輔

秋元但馬守

青山大藏少輔

保科肥後守

松平將監
酒井阿波守

松平玄蕃頭
松平紀伊守

今大路民部大輔 典藥頭一行

非藏人六人 二行

荷田信勝

卜部兼林

菅原正次

荷田信吉

秦 親明

加茂信久

供奉ノ公家各一日晴召具スル所ノ白張馬副布衣傘持其人體ニ依テ多少有テ差異無シ

極蔭小槻忠利壬生

新藏人藤原通規鹽小路

侍從實爲朝臣小倉

侍從實村朝臣橋本

侍從隆術朝臣四條

侍從雅昭朝臣飛鳥井

式部少輔秀雄船橋

少將有純朝臣六條

侍從通純朝臣中院

少將吉綱朝臣山科

中務少輔泰重土御門

中官權少進共綱朝臣清閑寺

侍從公勝朝臣三條西

辨綱廣朝臣勸修寺

右衛門督永慶朝臣

中將通前朝臣久我

一行
右大辨宰相業光朝臣柳原

中官權大夫通村卿中院中納言

中納言光慶卿日野

大納言綱光卿唐橋

新大納言光廣卿烏丸日野

大納言資勝卿日野

中官大夫實條卿三條

內大臣康通公二條

一日晴下襲唐織物蘇芳地紋菱散表袴唐織萌黃紋鞆唐織物地紋菱散右前後左右ノ供奉

先ニ地下ノ傘持十人白丁六人諸大夫二人騎馬隨身四人騎馬居飼二人副舍人二人布衣馬副

二人下蔭隨身二人行退紅一人

左

右

中將雅胤朝臣飛鳥井

中將爲賴朝臣冷泉

中官御方 御車

右御車前後左右ノ供奉牛飼四人一人ハ重形二人ハ御轅御車副八人冠禡舍人二人張退紅二人

少進藤原長信天野豐前守

藤原親次大橋越後守

權少進小槻亮昭

大屬中原職在

少屬高橋亮春

右五人狩衣紗紋下襲唐指貫唐

御隨身六人武家ヨリ遣サル

右 小川新九郎

左 柳生又右衛門

岡野平兵衛

高木九兵衛

花井勝右衛門

久永源兵衛

右冠如褐文紗縫物衣唐綾黃箔袖單附大帷袴唐石帶絲鞋

御車寄ニ於テ 乘御有テ御出西ノ四足御門ヲ北ヘ折リ正親町ヲ西ヘ行堀川ヲ南ヘ行三條ノ御第ノ東門ニ入セ給フ南四足ノ門外ニ於テ放牛手牽官司權少進大少屬等諸大夫青山大藏少輔板倉内膳正秋元但馬守松平豐前守安部攝津守久貝因幡守神尾刑部少輔等是ヲ役ス御車

寄ニ於テ 下御豫シメ御屏風几帳ヲ立ル先達テ參着ノ女房出迎ヒ奥ノ間ニ 入御供奉ノ公卿ハ中門ノ内東上北面シテ列ヒ立テ警屈ス殿上人ハ中門ノ外ニ留ル啓將亮權亮大進等ハ御車ニ隨テ其後入 御車ハ中門ノ外北ノ方ヘ立ル既橋侍從佐倉侍從板倉周防守酒井讚岐守井上主計頭永井信濃守御門外ニ候シテ諸般ヲ奉行ス 女院御幸 中宮行啓ノ次同刻 供奉行列二行

左

右

加茂頼久

藤原昌德

卜部兼里

藤原元知

卜部兼則

賀茂統久

右六人非藏人

右京大夫定時

安部泰吉倉橋

木工頭具堯

民部少輔在村唐橋

侍從雅陣王伯

侍從具起岩倉

侍從季福裏辻

侍從公業阿野

侍從公久花園

侍從隆經油小路

侍從忠定清水谷

侍從公根小倉

侍從隆朝楠笥

侍從基教川鱒

侍從經敦朝臣大炊御門

新少納言遂長朝臣西坊城

中將公信朝臣徳大寺

少納言長經朝臣東坊城

右衛門督永慶

前宰相氏勝水無瀬

宰相中將定好花山院

中納言宣顯卿阿野

中納言季繼卿四辻

右大將忠家卿九條大納言

一日晴下襲唐織物蘇芳地紋龜甲散紋紅葉表袴唐織物蘇方紋鞆唐織物蘇芳地紋菱散紋蝶右前後左右ノ供奉先

ハ地下ノ傘持八人白丁六人諸大夫二人馬騎上藹隨身二人馬騎下藹隨身四人行副舍人一人布

衣二人馬副四人冠退紅

次二

右大臣兼遐公一條

一日晴下襲唐織物黃紅葉表袴唐織物鞆蘇方紋右前後左右ノ供奉先地下ノ傘持十人二行但連白丁六人諸大夫二人馬騎居飼壹人厩舍人一人籠二人上藹隨身四人馬騎五位侍二人下藹隨身二人馬副四人退紅

女院御方 御車

右御車前後左右ノ御供奉御壺石次六人狩衣葛袴牛飼四人一人ハ童形一人ハ御榻御車副八人冠主典代安倍盛勝廳官紅采雜色四人舍人一人白張退紅二人 放牛手引下公卿殿上人ノ作法 中官同前但シ 御車寄手牽ノ役別人はヲ勤ム其後御車ハ中門ノ外

中官御車ノ西ニ立ル

後騎一行

大納言公益卿西園寺

左衛門大尉中益治興

召次長多吉繼狩衣白唐綾

姫君渡御 女院御幸ノ次同斷 供奉行列

左

右

藤原元知

鴨祐信

秦公慶

秦親條

賀茂誠平

荷田信重

右六人非藏人

侍從隆脩七條

清藏人清原堅忠

侍從宗種難波

侍從基定持明院

侍從宗保松木

少將通久久世

侍從基秀川鱒

少將公景姉小路

侍從信孝樋口

侍從隆量鷺尾

中將爲賢朝臣藤谷

侍從時興朝臣平松

中將康胤朝臣堀川

刑部少輔孝治朝臣竹内

西園寺宰相中將實晴

清閑寺中納言共房卿

次二

左大將教平卿鷹司

一日晴下襲唐織物黃紋浮表袴唐織物紋窠右前後左右ノ供奉ノ先地下ノ傘持八人白丁六

人諸大夫二人馬上上蔭隨身二人馬上下蔭隨身四人行副舍人二人布衣二人居飼二人退紅

姫君御方 御車

右御車前後左右ノ御供奉牛飼四人一人ハ童形二人ハ御轎ヲ持一人ハ御榻ヲ持御車副八人冠舍人二人白退紅

次出車六兩

一車

右車前後左右ノ供奉牛飼二人二行左白丁四人車副二人舍人二人布衣二人退紅一人六兩

供奉各同前

判官馬騎 左衛門尉大石昌弘

二車

判官馬騎 左衛門尉大石正弘

右二兩ノ御供奉車 中宮ノ女中十五人乘之

三車

判官馬騎 姉小路左衛門大志大石久弘

四車

判官馬騎 町口左衛門少志家弘カトシヨシノミチノカミ 是ナレ使

右二兩ノ御供奉車 女院ノ女中八人乗之

五車

判官馬騎堀川左衛門大志大石高弘

六車

判官馬騎勢田左衛門少志中原治直

右二兩ノ御供車 禁中女中八人乗之

下北面二行

藤原通氏川鯨準人正

藤原光益速水長門守

藤原宣頼山形右衛門尉

藤原重尙世繼甲斐守

藤原直益速水右近大夫

藤原將益速見右京大進

藤原道春河端左衛門少輔

賀茂氏顯岡本美作守

藤原榮益速水采女正

賀茂清田岡本丹波守

賀茂清生岡本龍助

源元教富島伊豆守

入御ノ後先ツ 中宮ノ御車南四足ノ門外ヲ出テ御車屋ニ入次 女院ノ御車次第ニ是ニ入御
供ノ車六兩ノ出車ハ是ヨリ先ニ 女院御車寄ノ方ニ引入 姫君御車ノ次也 御城東御門外

ニ於テ放牛モ牽但シ武家白丁相加リ牽也騎馬ノ衆御門外ニ於テ下リ隨車道明キ次第南ノ四
足ノ門ニ前西ノ方ニ引入 女院御車寄ニ於テ下此車寄ハ女中方末ノ衆女嬬等屏風ヲ立一車
ヨリ六車ニ至リ下車ノ者次第ニ車屋ニ引入 營中ニ於テ兼テ數局ヲ立ル事各長棟凡三十五
所局毎ニ晝夜ノ衣類手道具臺子以下行水所ノ雜物并伽羅燒物等ヲ豫シメ是ヲ調置ル抹茶ハ
宇治ニ課セテ數百斤是ヲ貢ス右諸ノ御道具後日ニ悉ク是ヲ送ラル

御座敷飾

儲御所南ノ御上壇間

御床ノ押板

御文臺蒔繪 御硯

御違棚

六種ノ御香ノ箱

中御棚

銀御火取銀ノ六角
盆ニ居

御棚下押板

御重硯二十一面

南面

御簾鎖二對獅子
虎

御座

東面ニ御茵アリ

中ノ御上壇ノ間

西南ノ角

御衣桁御衣ヲ
掛ル

西北ノ角

御鏡臺 詩繪御鏡ヲ掛ル

同所

御泔坏 銀臺詩繪御櫛一頭是ニ居

東南ノ角

御黒棚 詩繪銀盤三枚

黒棚 詩繪銀ノ御香爐 銀御香合

銀ノ御焼返入 右銀ノ四方盆ニ居 御昆布ノ箱 詩繪

御鳥箒 右御棚ニ有

御座 北面ニ御茵アリ

御帳臺ノ引物 紫地ノ金襴裝束ノ絲五色

御帳臺ノ内

西北ノ角 銀御衣桁一對 御衣三重ヲ掛ル

西南ノ角 御衣ノ箱一荷 詩繪上ニ御宿直物アリ同御枕

宿直物大一御枕 御蒲團御座

御裝束唐櫃ニ入乗籠共ニ梨子地高詩繪 ニ唐織大夜衣ニ御寝卷七色々

花梨ノ御脇息 脇ニ綱代ノ御枕

東北ノ角 御齒黒箱 同御小道具 銀ノ詩繪ノ盆一對ニ居 中ノ御座 南面ニ御茵アリ

御座ノ上ニ銀作ノ御劍 行平詩繪金蘭袋入ノ箱ニ入

北ノ御上壇ノ間

西南ノ角 御厨子ノ御棚 御料紙 色々脇ニ御水引包ヲ副 御硯箱 詩繪 銀御空焼ノ御火取香爐 御鳥

箒

西北ノ角 銀ノ御手拭掛 白布ノ御手拭三掛ル

御座 南面ニ御茵アリ

北ノ三ノ間

西南ノ角 銀ノ御臺子 金ノ風爐霰釜 金ノ水指翻物 金ノ御柄杓立 金蓋置

御臺子ノ上 金ノ茶入三金ノ御天目同臺 象牙御牙抄

金ノ御茶碗 詩繪臺ニ居 銀ノ御鶴飼茶碗一對 銀ノ臺ニ居

同四ノ間

西南ノ角 詩繪ノ御臺子 茶碗茶入

東南ノ角 御硯箱 詩繪銀ノ御椀角置 銀ノ御耳盃

西北ノ角 御硯箱 詩繪

東北ノ角 御簾鎖十對 獅子虎猫

御釣殿

前ノ御硯箱窓ノハ
衍文

東南ノ角 二階棚 御短冊筥 御硯蒔繪

御座 御

御天井掛風鈴

御廊下 玳瑁ノ燈籠

御休息ノ御殿

御書院ノ押板 御硯蒔繪 御鳥蒔

御床ノ押板 金ノ孔雀ノ御香爐銀ノ盆

御連棚 御香爐蒔繪ノ盆堆紅ノ御香合一對堆朱六角ノ盆沈ノ御枕一對

東北ノ角 銀ノ御手巾掛白布ノ御手巾

御座東面 御座ノ上ニ沈ノ御脇息アリ

御廣間ノ御飾

御上段ノ御床 三幅對牧溪筆左龍中塞山拾得 御床ノ押板 中 花梨 折卓 銀ノ御花瓶

金蠟燭立 銀ノ御枕右虎 銀ノ御香爐獅子 銀ノ御香合菱 銀ノ香匙ノ臺

兩脇花梨ノ卓 銀ノ御花瓶二對

下壇 御臺梨子地 御風爐釜水指水滴蓋置以下皆黃金柄抄茶筌

右ノ諸節悉進上アリ

諸ノ御所晴ノ御膳

御座ノ疊ヲ敷御茵ヲ設ル

主上出御御直衣 大相國將軍家御着座長押ノ内ニ兼テ圓座ヲ設ケ南ノ簀子階ノ東一列圓座アリ

關白近衛左大臣 右大臣兼退 内大臣廣通 日野大納言實勝 西園寺大納言益公 今出川大納言宣季 左大

將藤原 右大將忠家 晴ノ御膳以前大相國將軍家以下各衝重ヲ献ス大相國御膳陪膳柳原宰相將

軍家陪膳中山頭中將關白陪膳勸修寺辨公卿陪膳山科少將土御門中務

杯酌一返 大相國將軍家關白以下巡流其後

主上晴ノ御膳御陪膳鷹司左大將御手長柳原宰相鳥丸宰相右衛門督兩頭中將

事畢テ 入御各下座ヨリ退出

右晴ノ御膳内膳司高橋 是ヲ供ス

内々献方

初献 御盃 主上御前一 女院御前一 中官御前一

御盃數三

主上御盃 大相國 女院御盃 將軍家

中宮御盃 姫宮女二宮但兩姫宮御幼少ニ依テ深更ニ及フ故出御ナシ

二献 御盃數同前

主上御盃 將軍家 女院御盃 大相國

中宮御盃 將軍家

三献 御盃數同前

主上御盃 大相國 女院御盃 將軍家

中宮御盃 大相國

七ノ御膳 御相伴同前

内ヤノ御膳

主上御掛盤御器御銚子御瓶子御提子諸御道具以下悉黃金ヲ以是ヲ製ス 中宮御膳

女院御膳黃金白銀ヲ以是ヲ雜製ス 姫宮女二宮御膳又同シ左ニ詳ナリ右御膳ノ御道具悉

後日ニ進上

主上御膳方ノ奉行

彦根少將 板倉侍從周防守

中宮女院姫宮女二宮御膳方奉行

既橋侍從 伊丹播磨守 右將軍家ヨリ被仰付

佐倉侍從 松平右衛門大夫 右大相國ヨリ被仰付

女中方上下トモニ右ノ内ニアリ

同晚 行幸供奉ノ役人衆百三十餘人樂人五十人七五三ノ點待アリ平折敷諸公家衆或ハ昵近

或ハ外様百餘人點待同前但三方足打人体ニ依テ替ル

同七日快晴行幸朝御膳御内ヤノ儀將軍家御進物兼テ儲ノ御所ニ陳列シ東南ノ御簾ヲ釣ル

砂金三千兩 砂金包ニテ

白銀三万兩 臺三十二是ヲ載セ實子ニ列ス

御服二百領 長持二十ニ入縁ニ列ス櫃ノ内外梨地時繪菊金具皆金銀ヲ用棒モ同シ

沈ノ櫛一本 長サ二間余中ノ廻リ四尺五寸紅紫ノ網ニテ三廻結ヒ臺ニ載庇ノ間ノ内ニ置

襦絹百卷 臺五ツニ積ミ南長押ノ内ニ列ス

紅糸二百斤 臺一ニ積ミ北次ニアリ

玳瑁三十枚 臺一ニ積ミ北次ニアリ

麝香五斤 銀ノ大棗五ツニ入臺一ツニ積ミ玳瑁ノ次ニアリ

刻限ニ至

主上出御御座西ノ上壇ニ於テ東面將軍家庇ノ間ヨリ出御御太刀平上壇ニ上ル上壇ノ際ニ於テ御一禮終テ御退出

主上入御

御臺所ヨリ御内々ニテ献上

御衣三十領 高時繪金カナ貝ノ長持三掉ニ入テ唐織物油單カ、ル

砂金三百兩

將軍家ヨリ御内々ニテ 中宮へ獻ゼラレ物

白銀一万兩

御服五十兩 梨地高時繪金カナカイノ長持十掉ニ入唐織油單カ、ル

沈香七十五斤 紅ノアミニ入

紅糸百斤

緋華系絹五十卷

白綾子五十卷

麝香二斤 白銀ノナツメニツニ入

同 女院ノ御方へモ同前ニ被進

同 女一宮へ 御内々ニテ被進物

白銀三千兩

御服三十領 蒔繪長持三掉ニ入油單同前

金襴十卷

黃金五百斤 但一片黃金一分ヲ以テ製ス雕ノ玩

白銀五百斤 同前

同 女二宮へ御内々ニテ被進物

白銀二千兩

御服二十領 長持ニ同前

金襴十卷

黃金五百斤 同前

白銀五百斤 同前

禁裏へ新御臺所ヨリ献上

御小袖三十領 長持ニ入砂金三十枚

中宮 女院 女一宮 女二宮へ新御臺所ヨリ 御小袖二十領 砂金二十宛獻セラル

同日舞樂アリ官方攝家衆先官ノ大臣諸門跡諸公家殘ラス出仕并ニ諸大名諸大夫以下不殘伺候ス未刻ニ至舞御覽

主上出御階間御簾ノ際ニテ兼テ御座一疊御茵ヲ設ク西ノ間中官女院御座一疊宛御茵アリ同間姫官女二官御座但疊東ノ間大相國將軍家御座屏風ヲ以テ是ヲ圍フ同東ノ二間親王門跡前官ノ大臣ノ座關白以下公卿殿上人縁ヨリ平張ニ至テ列座ス兼テ圓座ヲ敷ク

舞樂以前

舞臺 修理職奉行シテ是ヲ構舞終テ是ヲ撤ス

幄骨 木工寮是ヲ奉行ス

幄覆 大藏省是ヲ奉行ス殿上人ノ居處ハ段子ヲ以覆フ左右樂人ノ幄ハ紺布ヲ以テ覆ヒ

紅白綾ノ幕紋ヲ以テ四方ニ張

先樂人中門ノ外ニ於テ三度ノ亂聲左次右次左右共ニ奏ス次ニ吹調子平調參音聲塵雲樂次左右ノ樂行事左近衛中將嗣良朝臣右頭中將基音朝臣中門ニ入テ樂屋ノ前ニ立左右ノ樂人舞人庭中ニ列ヲ立テ一鼓舞々終テ樂屋ニ入次樂行事本路ヲ經テ退ク

次左 振舞 奈良 狛近元

次右 振舞 天王寺 秦兼秋

次万歳樂左六人奈良

狛近元 狛友安 狛近盛

狛近慶 狛友久 狛近朝

次延喜樂 右六人天王寺京

秦兼秋 秦兼貞 秦廣光

多忠行 多忠貞 多忠常

次青海波

序 輪臺

破 青海波

通 純中院侍從
忠 勝阿野左京大夫
公 理四辻侍從

雅 昭飛鳥井侍從
宗 朝四條治部大輔
時 良西洞院侍從

麴塵闕腋袍下襲紅葉表袴 紅葉 卷纓冠 詩繪ノ野太刀 紫綵平絹絲鞋青海波ノ二人 菊挿頭垣代三十四人舞六人以上四十八人也殿上人十四人伶人十二人御隨身八人

殿上人 各弓壺胡篳ヲ持 染裝束

堀川中將康胤朝臣垣代音笙ヲ取

冷泉中將爲賴朝臣

刑部少輔孝治朝臣垣代音齊樂

北畠少將親顯朝臣

源少將重秀朝臣	平松少將時典朝臣
樋口少將信孝 <small>垣代音 笛ヲ取</small>	姊小路少將公景
六條少將有純	松本侍從宗保
東園侍從基赦	難波侍從宗種
持明院侍從基定	裏辻侍從季福
右ノ伶人十二人 襲裝束	
秦兼延	大神景福
安倍季勝	多忠行
秦昌長	多忠常
御隨身八人	
下毛野武村	下毛野武通
秦吉武	紀長房
御所作 御筆 簾中	
兵部卿官 伏見貞清	源武慶
彈正官 高松齊祐親王	源元清
	藤原武次
	秦廣賴
	秦兼次
	秦廣壽
	多忠興
	多忠清
	多忠定
	琵琶
	箏

御兒御所 伏見若宮	琵琶
簀子着座	
關白左大臣 <small>信尋</small>	箏 <small>中山頭中將元</small>
右大臣 <small>一條兼退</small>	箏 <small>東城長經朝臣</small>
前關白 <small>九條忠榮</small>	箏 <small>同</small>
內大臣 <small>二條康道</small>	笙 <small>御笛 宮長維朝臣</small>
左大將 <small>鷹司教平</small>	笛
右大將 <small>九條大納言忠家</small>	笛 <small>西坊城達長</small>
四辻中納言 <small>季繼</small>	箏 <small>西坊城達長</small>
西園寺宰相中將實晴	琵琶 <small>同</small>
右衛門督 西洞院忠直	箏
殿上人	
吉總 <small>山科少將</small>	笙
忠定 <small>清水谷侍從</small>	箏 <small>藏人絃</small>
公根 <small>小倉侍從</small>	琵琶 <small>同</small>
	隆朝 <small>櫛笥侍從</small>
	通式 <small>久世少將</small>
	公久 <small>花園侍從</small>
	箏 <small>同上</small>
	笙

在村唐橋民
部少輔

箏

座ノ末ニ打板ヲ構ヘ圓座ヲ敷殿上人ノ座トス

同方砌ニ打板ヲ構ヘ圓座ヲ敷地下樂人ノ座トス

地下樂人奈良方

笛

狛近直

狛直葛

狛元朝

狛友久

笙

狛近元

狛友隆

狛近長

豐信秋

箏

狛近次

狛近光

狛近慶

鞆

狛近弘

大鼓

狛近益

鉦鼓

狛近正

垣代次第中門ニ入舞人打須知可倍逆匝庭中是ヲ大當

御座前東西作輪是ヲ小輪臺ト云青海波舞人六人ノ外作輪

序舞人在兩輪内次一行平立

次散手 右四人天王寺

秦兼秋

秦兼貞

秦廣元

秦兼護

次陵王 左一人奈良方

散一本ニ敷ニ作ル

狛近元

舞終ル刻限 御座ノ間西ノ方ニ衣菊袴紅打推出サル關白進寄御簾ノ下ニ置是ヲ取テ階ニ

於テ舞人ニ賜ル舞人左ノ肩ニ掛一曲ヲ舞テ退ク

次納曾利 二人京衆 多忠辰 多忠清

舞終ル刻限右大臣祿ヲ取テ階ニ於テ舞人ニ賜ル紅葉一曲ヲ舞テ退ク今一人ノ舞人樂屋ニ

入ントスル内大臣召還シ祿ヲ賜事如右次左右舞終テ退出音樂

長慶子

次所役人管絃ノ興ヲ取

次 入御

次下臈ヨリ退出

左ノ伶人

笛

大神景福

狛近直

狛直葛

狛葛久本

多忠俊

多忠近

笙

狛友隆

狛近長

豐光秋

豐信秋

箏

狛近次

狛近光

安倍秀爲

鞆

狛近弘

大鼓 狛近益
鉦鼓 狛近正

右ノ伶人

笛 大神景福 秦昌辰 秦兼政 秦昌秀
箏 安倍季勝 秦兼次 秦兼清 秦兼元 安倍季守 多忠興

笙

三鼓 秦昌忠

大鼓 秦廣頼

鉦鼓 秦兼信

今度襲裝束舞裝束悉新調也 左右ノ樂屋五間續續ノ幔ヲ引大文アリ縫唐綾黒ト赤ト二色也

舞臺地鼓四方ニ幔ヲ引ク

舞終テ御内々ニ於テ七五三ノ御膳官方攝家方前官ノ大臣小廣間上段下ノ間ニ於テ點待アリ

七五三金銀ノ膳部也逐一ノ御膳金銀ノ臺ノ物美麗ヲ盡ス

左座

八條宮

伏見宮

八條若宮

伏見若宮

西園寺前右大臣

花山院前右大臣

右座

關白近衛左大臣

一條右大臣

高松宮

鷹司大閤

九條前關白

二條内大臣

左大將藤原氏

右大將藤原氏

右座奉行

本多美濃守

小笠原右近大夫

給仕十人諸大夫

三浦山城守

京極主膳正

戸田淡路守

伊澤隼人正

内藤市正

柴田筑後守

田中主殿頭

小笠原壹岐守

佐久間河内守

神尾官内少輔

諸門跡衆同小廣間下壇次ノ間ニ於テ點待アリ膳部臺ノ物以下金銀ヲ鏤ル

左座

仁和寺門跡

大覺寺門跡

聖護院門跡

照高院門跡

梶井門跡

大乗院門跡

實相院門跡

圓滿院門跡

三寶院門跡

右座

竹内門跡

一乘院門跡

妙法院門跡

知恩院門跡

青蓮院門跡

隨心院門跡

勸修寺門跡

毗沙門堂門跡

右座奉行

松平下總守從侍

松平河内守品四

給仕十三人諸大夫

織田丹後守

小出信濃守

關兵部少輔

水野因幡守

山内伊豆守

竹中筑後守

横山土佐守

井上淡路守

本多將監

秋田隼人正

德永出羽守

佐々木民部少輔

川勝信濃守

諸公家公卿殿上人次ノ間奥ノ間廊下ニ於テ點待アリ凡ソ百三十餘人七五三ノ膳部攝家同前但シ公卿ハ三方ヲ用殿上人以下非藏人ニ至マテ足打

座奉行五人

松平式部大輔

松平越中守

松平周防守

水野隼人正

岡部内膳正

給仕十七人諸大夫

森伊豆守

佐久間信濃守

堀田兵部少輔

森左兵衛佐

赤井豊後守

朽木兵部少輔

本多丹後守

牧野主水正

岡部大和守

松平筑後守

柳川豊前守

松平日向守

三好越後守

酒井主膳正

松平備前守

東條紀伊守

仙石大和守

地下百六十餘人殿上ノ下ノ間縁ニ於テ點待アリ平折敷膳部七五三也

馳走衆十二人

本多飛彈守

戸田因幡守

丹羽式部少輔

杉原伯耆守

片桐出雲守

谷 出羽守

青木民部少輔

蒔田權之助

溝口伊豆守

長谷川式部少輔

石川伊豆守

片桐主膳正

給仕ハ馳走人衆ノ家來烏帽子ヲ着シ勤之

公卿殿上人ノ諸大夫殿上ノ上壇ノ間ニ於テ點待アリ膳部公家衆同前

座奉行七人

松平丹波守

水野日向守

戸田左門

牧野駿河守

菅沼織部正

本多伊勢守

本多下總守

給仕ハ御近習ノ内平侍烏帽子上下ヲ着シ勤之

諸大名以下諸大夫衆役宜ノ間ニ於テ點待アリ膳部同前

座奉行五人

高力攝津守

保科肥後守

堀丹後守

溝口伯耆守

佐久間大膳亮

給仕ハ御近習ノ内平侍烏帽子上下ヲ着シ勤之

舞以前官攝家門跡諸公家大名諸大夫草ノ振舞アリ座敷并奉行給仕同前此七五三ノ引替草振舞兼テ用意ストイヘヒ深更ニ及ユヘ是ヲ出サス

同晚官方攝家方門跡諸公家衆地下ニ至マテ各賜物アリ或ハ白銀三千兩綿衣二十兩或ハ二千兩千兩五百兩綿衣十領五領甲乙其品アリ次ニ備ナリ官方公家衆ニハ御太刀一腰添ラル次ニ出ス

今晚歌ノ御會兼日治定ノ處深更ニ及ヘキ故延引

同八日行幸第三日 朝御膳内々ノ儀

大相國ヨリ御進物兼テ陳列ス儲ノ御所東南ノ御簾ヲ釣ル

御服百領長櫃十二入長持内外梨地蒔繪菊水金銀ヲ用ル棒又同シ唐織油單有縁ニ置

黄金二千兩 臺ニニ居長櫃ノ東ニ莊ル

緋綾子百卷 臺ニニ居黄金ト並ヘル

伽羅十斤 白銀ノ箱ニニ入長二尺幅一尺六寸高五寸ノ箱臺ニスヘ上壇ノ下左ニアリ

麝香五斤 白銀ノ棗五ニ入伽羅ト並

蜜六十斤 白銀ノ壺ニニ入紅ノ網ヲ掛ケ上段ノ下右ニアリ

刻限ニ至リ

主上出御御座西上壇 大相國庇ノ間ヨリ御出御太刀菊金作錦ノ袋箱梨地高蒔繪金カナ具有上壇ニ上ケ上壇ノ

際ニ於テ御一禮有テ御退出

主上入御

同日 大相國ヨリ

中官へ御内々被進物

白銀一萬兩 五千イ

御服三十領 右同斷ノ長持へ入

沈香七十五斤 紅ノ網カ、ル

伽羅五斤 白銀ノ箱ニ入

華絲絹五十卷

女院御所へ同斷

同女一宮へ内々ニテ進ラレ物

白銀三千兩

御服二十領長持ニ入

雛ノ御道具

傀儡ノ御翫

同女二ノ宮へ内々ニテ被進物

白銀二千兩

御服二十領

雛ノ御道具

傀儡ノ御翫

殿守 獻覽但親望ニ依テナリ

四方遠景 獻覽數刻ニシテ 下御内々ニテ御膳ヲ献セラレ數般ノ珍烹アリ

夜ニ入テ和歌ノ御會始ル儲ノ御所階ノ間ノ闔ヲ除キ東南ニ御簾ヲ釣燈臺三所座上ニ御座疊

イニ御歌ノ會ハ七
日ノ夜ト云々

縁高麗 錦ノ御茵ヲ設ク大臣官公卿ノ座ハ疊廻リ敷高麗 讀師講師ノ圓座ヲ御座ノ前ニ設ク頭中
將基音朝臣燈臺ヲ持講師ノ圓座ノ左ノ上ニ置勸修寺辨經廣火ヲ持テ燈臺ノ上ニ置高倉中將
嗣良朝臣懷紙ヲ硯ノ蓋ニ盛り讀師ノ圓座ノ前ニ置ク
主上御座東戌ノ刻前ニ 出御

左座

大相國 御直衣御袴葉同織物御鶴菱
御指貫萌黃唐織物御紋丁子ノ丸

關白 近衛左大臣直衣
色黃紋立涌牡丹

二品 伏見宮直衣衣色黃紋紅葉浮織物
指貫萌黃唐織物紋藤ノ丸

太閤 鷹司

内大臣 二條直衣衣蒲蘇
芳紋色唐松指貫

新大納言 烏丸

左大將 鷹司衣蒲蘇
芳紋龜甲

右大將 九條衣黃織物
色紋唐花指貫

宰相 柳原

右座

大納言次ニ右大將次ニ左大將次ニ烏丸大納言次ニ日野大納言次ニ三條大納言是マテハ一返披講次ニ内大臣次ニ前關白次ニ大閤次ニ無品親王次ニ二品親王次ニ右大臣是マテハ三返次ニ將軍家次ニ大相國兩御歌ハ五返讀終テ冷泉緣ニ退ル内大臣本座ニ歸着ク其前關白讀師ノ圓座ニ着ク時ニ三條日野四辻阿野中院少退ル關白座ニ着テ烏丸ヲ氣色アリ烏丸講師ナレハ掛ノ座ヲ立テ中ノ圓座ニ着關白 御前ニ膝行シテ 御制ヲ取テ圓座ニ着 御詠ヲ披キ見テ烏丸大納言ニ渡ス高ヤト讀ム四辻發聲ス七返讀フ講頌ノ衆ハ元ノ如シ其内ニ烏丸本ノ座ニ着ク披講終テ

天皇入御ノ并着座ノ公卿座ヲ立テ拜ノ又本ノ如ク着座アリ下座ヨリ次第ニ退去畢此御會御歌 詠竹契遐年和歌(中路)

御遊 和歌ノ御會終テ儲ノ御所庇ノ間ニ疊ヲ敷東南ノ御簾ヲ下ス庇間東御簾ノ際ニシテ御座ヲ設次ノ間御簾ノ内大相國將軍家御座各官攝家衆伺候ス

調子平調

催馬樂 伊勢ノ海拍子未子繼

百餘年ニ及テ斷絶ノ處今度別ニ四辻中納言季繼ニ勅ヲ下シテ再興ス

萬歲樂急

林歌殘樂

朗詠德是

泰平樂急

夜半樂殘樂

朗詠嘉辰

未子ニ字遊クハ季ノ誤

慶德

簾中

御所作

御筆催馬樂

關白

箏

右大臣

箏

兵部卿官

琵琶

彈正官

箏

御兒御所伏見宮

箏

前關白

箏

内大臣

笙

左大將

笛催馬樂

右大將

笛

篳子ニ疊ヲ敷公卿ノ座トス

四辻中納言

箏催馬拍子朝詠

西園寺宰相中將

琵琶

右衛門督

箏築

圓座ヲ敷殿上人ノ座トス

雅胤朝臣

飛鳥井中將

催馬樂府歌朝詠

康胤朝臣

堀川中將

笛

嗣良朝臣

高橋中將

箏

孝治朝臣

竹内刑部少輔

箏築

基音朝臣

園頭中將

笙

信孝

樋口中將

笛朝詠

言總山科内

頭

笙

高有

綾小路少將

朗詠

公理侍從四辻

箏

隆教侍從楠等

笛

忠定侍從清水谷

箏

通式侍從久我

箏

基定侍從明院

朗詠

公根侍從小倉

琵琶

公久侍從花園

笙

在村唐橋民部少輔

箏

殿上人ノ座ノ末ニ打板ヲ構圓座ヲ敷地下人ノ樂人座ス

笛

大神 景治

大神 景福

狛

近正

笙

狛 友隆

狛 近長

秦

廣賴

箏

秦 兼貞

安倍 季勝

狛

近元

狛 近慶備馬

鞆

秦 昌忠

大鼓

狛 近元

鉦鼓

秦 兼秋

松明

主殿 二人

下司 二人

御藏 二人 掌灯

御遊ノ間頻ニ雨天事畢テ各退出ス 其後御内々ニ於テ御膳宴遊曉更ニ及フ

九日第四日半晴半雨 朝御膳御内々ノ儀今日猿樂

叡覽大廣間上壇ノ下ノ間ニ御簾ヲ垂御簾ノ際中ニ 御座ノ疊ヲ敷御茵ヲ設ケ

主上ノ御座トス左ニ御座ノ疊ヲ敷御茵ヲ設ケ

中宮ノ御座トス右ニ御座ノ疊ヲ御茵ヲ設ケ

女院ノ御座トス儲ノ御所大廣間ノ縁通ニ至テ屏風ヲ以是ヲ圍筵道敷布毯蓋シ猿樂

御覽ハ密々ノ儀ナリ官攝家前官ノ大臣諸公家諸門跡諸大名諸大夫殘ヲス出仕次ノ間ニ御簾

ヲ掛ケ屏風ヲ以テ圍ヒ 大相國 將軍家ノ御座トス其次ニ御簾ヲ垂官攝家先官ノ大臣諸門

跡ノ座トス駿河尾張紀伊三大納言水戸中納言御同座此外ノ公卿殿上人各縁ニ伺候ス兼テ圓

座ヲ敷廊下ヲ以諸大名以下諸大夫衆ノ座トス殿上ノ間ノ縁ヲ以諸司官司院司北面諸大夫ノ

官等ノ座トス猿樂以前造花ノ菊花數朶白銀ノ手桶一ハ紋菊水ニハ葵ノ丸長サ一尺五寸廻リ三尺 大相國ヨリ進上

叡感殊ニ甚シ猿樂ノ内御膳數度金銀ノ臺ノ物以下陳列但シ御内々ノ儀女中ノ外是ヲ知ラス

猿樂七番 開口 山科進藤

をろここのたうたいのまゆん志うハ政を天下よほどこ一我朝の北山の行幸ハ名を後代よ傳へぬまてや今ハ德澤のあつきこと重陽よさける菊の露つもつてかねて幾世の淵をあらハいせいねんのまけきこと四の時かまらぬ松の色ぬく猶もちとせの秋をまる古今よぬくひあき君う代の目出度うまなる時とあや

三十郎

難波

大庄九郎

笛 又三郎 太左吉

七郎	田村	ワキ	春藤	小大	源右衛門	笛長	藏
七大夫	源氏供養	ワキ	權右衛門	小大	新又九郎	笛長	藏
三十郎	紅葉狩	ワキ	春藤	小大	庄次郎	太笛	長吉藏
七大夫	道成寺	ワキ	新藤	小大	九郎兵衛	太笛	又三郎
七郎	三輪	ワキ	春藤	小大	源右衛門	太笛	長惣右衛門
七郎	藤永	ワキ	新藤	小大	九郎兵衛	太笛	又三郎
七大夫	熊坂	ワキ	彦次郎	小大	庄九郎	太笛	長新介藏
三十郎	熊坂	ワキ	新藤	小大	小左衛門	太笛	又三郎
三十郎	狸々	ワキ	新藤	小大	新又九郎	太笛	又三郎

此内紅葉狩藤永二番ハ無之

猿樂三番過テ公家武家各前ヤノ間ニ於テ點待アリ一二三結皆金銀ヲ用ユ

其後見物ノ席ニ於テ金銀ノ臺ノ物ヲ出シ酒ヲ勸ルテ數返猿樂以後各點待ノ用意アリトイハ
氏御沈醉再三御斷アルニ依テ秉燭ノ程退出

此日重陽ニ依テ 大相國 將軍家御前ニ於テ 天盃ヲ賜ル當晚御内ヤニテ
後鳥羽院宸筆ノ日券一卷ヲ獻セラル

元寬日記曰御馬 觀覽ノ日暮ニ及ンテ飛鳥井難波ノ兩卿ニ仰テ蹴鞠興行アリ兼日ヨリ南
庭ニ於テ飛鳥井宰相下知ヲ加ヘテ被植四本掛良ノ方ハ櫻巽ノ方柳坤ノ方楓乾ノ方ニ松也
木ト木トノ間二丈一尺最モ庭分ケノ石ヲ居テ祭立ト云此石四方ニハ多聞持國增長廣目ノ
四天ヲ祭ル其四維ニ天長地久御願圓滿ヲ呪ス是祭リ立ノ庭ナレハ此石ヲ踏事ヲ禁ス若過
ツテ踏ハ相手兩方並ヒ出テ互ニ頌文ヲ唱フ其作法嚴重也掛リノ木ノ枝ヲモ故實ノ如ク鞠
分ノ枝一ノ枝也節ノ枝二ノ枝也カサシノ枝隅ノ枝繁ノ枝又節ノ枝先八ツノ枝ヲ用ラル妻向ノ御庭
左ニ奉行右ニ役人伺公ス役人ノ前ニ小口ヲ開キ其向ニハ出入ノ口ヲ開ク掉持數取同ク伺
候ス公家并ニ商人鞠ニ名ヲ得タル輩皆相手ニ出ツ鞠ヲ松ノ枝ニ付テ御庭へ入是ヲ松鞠ト
云目ヨリ高ク捧ケ庭ノ中央ニ蹕蹕シ跪キ三足進鞠ヲ置テ又三足退テ後立テ飯ル此間ニ飛
鳥井難波以下緣座ニ着ク懷中ヨリ疊紙ヲ取出シ其上ニ扇ヲ載テ緣座ノ下へ地紙ト骨トノ
塚マテ差入一度ニ立相手賦リシテ蹴鞠ヲ始ム 大流レ 大籠 小籠 疊摺 衣紋流 延
足 連延 尾花返 櫻重 紅葉重 旗板返リ 糸亂 柳詰 花月足 雲ニ添足 呼小鳥
白瀧流 流返 打緒流 百間合 曲尺ナト今日ヲ晴ト盡サレケレハ見物ノ上下感ニ絶息
ヲ吞ケルトッ夫鞠ニ十德アリ一ニハ神德アリ二ニハ姿能成三ニハ足利四ニハ目早シ五ニ
無病六ニ愛敬有七ニ交高下八ニ獨慰ム九ニ一藝足ル十ニ成佛ト申シ傳タルモ斷トソ見へ

シ
按スルニ玉露叢東武實錄寬明日記難波戰記ニ蹴鞠ノ事ナシ然ハ御日詰リシユヘ是ナシト
見ヘタリ

同十日第五日快晴朝七五三ノ御膳御引替ノ御膳御内々ノ儀 大相國 將軍家御相伴ナシ
巳ノ刻

女院還御出車二兩供奉ノ公卿殿上人諸役者并ニ女中ノ長柄釣輿以下御幸ノ時ノ如シ
午刻殿主 叡覽先日霧霞タナヒキ遠山分明ナラス是ニ依テ再ヒ此儀ニ及フ暫有テ
下御

未ノ刻儲ノ御所東南ニ御簾ヲ垂レ階ノ間御簾ノ際ニ 御座ノ疊ヲ敷御茵ヲ設ル
主上出御將軍家御東帶一日晴但行幸ノ日御紋替ル東南ノ敷居ノ内御座其時進上ノ御馬鞍十足次第二
庭上ニ引廻ス

引手隨身四人

中山勘解由

森川金左衛門

清水權之助

天野佐左衛門

請取役人

左馬寮 允

松久平相袍關

右馬寮 允

武教衣裝
同前

舍人六十人内十五人烏帽

御馬引畢テ 御手本道風筆新樂府黄金ノ折枝中院中納言東帶南ノ簾外ニ於テ披露 將軍家
退出シ給フ 大相國出御御束帶進上ノ御馬五疋庭上ニ引廻ス役者同前

朗詠行成御筆

一部箱梨地高時繪臺ニ居

萬葉集初卷終卷
定家卿筆

甘卷 同斷

陶淵明圖子昂筆

同斷

右進上簾外ニ於テ披露畢テ 入御

其後三獻ノ御祝儀アリ儲ノ 御所裏ノ間北向ニ主上上壇左座 中宮東面 大相國南面上壇其

次將軍家南右座 將軍家ノ後ノ下段ニ駿河大納言忠長卿

女院御座タルヘキヲ 早朝還御 故ニ此座明ク姬官出御ナシ

初獻御盃

主上御前二

中宮御前一

主上御盃

大相國其次

將軍家次ニ駿河大納言

中宮御盃

大相國其次

將軍家其次駿河大納言

二獻 同前

三獻

主上御前御盃三 中宮御前御盃一

主上 大相國御酌 天盃 大相國此時 天酌也御盃收ル

其次 將軍家 天盃 天酌同前御盃納ル

其次駿河大納言忠長 天盃 天酌同前

此後 中宮御盃女中衆へ次第二下ル

還幸 鳳輦ヲ南階ニ寄ル時ニ 大相國 將軍家東ノ階ヨリ御下アリ中門ノ内北ノ方

ニ御立供奉如行幸時鳳輦過ルル御警折 還幸御供奉諸役者ノ次第 行幸ノ時ノ如シ

但 中宮ノ御供奉武家ノ公卿五人相添テラル

尾張大納言 紀伊大納言 加賀中納言

薩摩中納言 備前宰相

但騎馬東帶一日晴衣紋行幸ノ替ル供奉人以下

御幸ノ時ノ如シ

姫宮ノ御供奉武家ノ公卿五人相副ラル

駿河大納言 水戸中納言 仙臺中納言

越前宰相 會津宰相

規式同前出車四兩也

諸家へ 將軍家ヨリ贈物

御太刀 雲次 一腰

白銀三千兩 近衛關白

綿衣二十領 花系絹緇子白綾島絹以下同

御太刀 守家 一腰 一條

白銀二千兩

綿衣二十領

同斷 御太刀 助吉 八條宮

同斷 御太刀 信國 伏見宮

同斷 御太刀 助依 同若宮

同斷	御太刀次吉	高松宮
同斷	御太刀長光	鷹司太閤
同斷	御太刀行平	九條
同斷	御太刀安供	二條
同斷	御太刀村國	鷹司左大將
同斷	御太刀守家	九條右大將
白銀千兩綿衣二十領		仁和寺門跡
同斷		竹內門跡
同斷		大覺寺門跡
同斷		妙法院門跡
同斷		一乘院門跡
同斷		智恩院門跡
同斷		照高院門跡
同斷		梶井門跡
同斷		青蓮院門跡

同斷	隨心院門跡
同斷	大乘院門跡
同斷	三寶院門跡
白銀五百兩綿衣十領	實相院門跡
同斷	圓滿院門跡
同斷	勸修寺門跡
同斷	毘沙門堂門跡
御太刀來國俊一腰	西園寺前右大臣
白銀千兩綿衣二十領	花山院前右大臣
同斷 御太刀延壽	同宰相
同斷 御太刀守家	西園寺大納言
同斷 御太刀准慶	轉法輪大納言
同斷 御太刀	菊亭大納言
同斷 御太刀	西三條大納言
同斷 御太刀	

同斷	御太刀	廣橋大納言
同斷	御太刀兼光	日野大納言
同斷	御太刀守家	烏丸大納言
白銀五百兩綿衣十領		萬里小路入道
御太刀 守家一腰		四辻中納言
白銀三百兩綿衣十領		中御門中納言
同斷	御太刀助依	正親町三條中納言
同斷	御太刀新藤五	清閑寺中納言
同斷	御太刀信包	阿野中納言
同斷	御太刀行平	日野中納言
同斷	御太刀西蓮	白川二位
同斷	御太刀長光	西洞院宰相入道
同斷	御太刀長光	水無瀬宰相
御太刀 來國光一腰		中院中納言

白銀五百兩綿衣十領	廣橋宰相
同斷	御太刀
同斷	御太刀則宗
同斷	御太刀長光
同斷	柳原宰相
同斷	烏丸宰相
同斷	西園寺宰相
同斷	藤右衛門督
同斷	飛鳥井中將
同斷	冷泉中將
同斷	三條侍從
同斷	勸修寺辨
同斷	土御門中務
同斷	中院侍從
同斷	山科少將
同斷	六條少將
同斷	舟橋式部少輔

同斷 同斷

鷲尾侍從

川鱒侍從

櫛笥侍從

綾小路少將

姊小路少將

松木侍從

日野西右少辨

西洞院侍從

東園侍從

万里小路右兵衛佐

久世少將

難波侍從

中御門左兵衛佐

中川侍從

正親町侍從

同斷 同斷

高倉侍從

小倉侍從

花園侍從

油小路侍從

橋本侍從

裏辻侍從

阿野侍從

伯侍從

岩倉侍從

唐橋民部卿

正親町三條

堀川侍從

西大路侍從

七條侍從

小兒

鳥居大路修理大夫

官野官内

松下民部大輔

馬場式部

西室主殿頭

鴨主膳

朝倉内記

岡崎木工助

禁中女中方

白銀五百兩綿衣十領宛

大典侍車

權典侍車

上臈車

大典侍車

長橋長柄

大納言長柄

新典侍長柄

長橋長柄

白銀三百兩綿衣六領宛

新内侍車

内侍并御下内
宮内卿車

同上

伊豫長柄

白銀五百兩綿衣六領

同上

兒七人長柄

白銀二百兩綿衣四領

御下

周防長柄

伊勢

同
播磨車

同
下野車

白銀百兩綿衣二領

采女ノ頭
才長柄

采女

御末ノ頭
阿茶長柄

白銀百六十枚

御末五

女婦九

ひつかき四

白銀五千兩

總女中

中宮御方女中

白銀五百兩綿衣十領

權大納言車

新大納言車

御櫛筒車

梅小路車

宣旨車

白銀五百兩綿衣六領

鷹頭侍並
式部車

内侍ノ内典侍並
右衛門佐車

白銀三百兩綿衣六領

内侍
中將車

内侍
左京車

御下内侍並
大貳長柄

白銀二百兩綿衣四領

豐前

御下
肥後車

御下
長門長柄

御下 但馬 長柄

御下 日向 長柄

御表使御下並 内海 長柄

白銀五百兩綿衣十領

姫君様御内典侍並 中務車

白銀二百兩綿衣四領

同断 彌々長柄

同断 万 長柄

白銀百兩綿衣三領

同断 御指長柄

同断 筑後 同

白銀百兩綿衣二領

御下頭 茶 長柄

白銀八百兩

於末

御下 信濃

御下 薩摩 長柄

御表使御下並 河内 長柄

姫君様御内典侍並 今車

同断 御乳人

同断 茶々長柄

同断 御乳人

同断 岩 長柄

同断 牧 長柄

同断 御物書 同

同断 山路 同

同断 山路 同

同断 山路 同

女婦八人

御下 石見 長柄

御表使御下並 出羽 長柄

同断 阿古 長柄

同断 阿古 長柄

同断 阿古 長柄

同断 阿古 長柄

同断 阿古 長柄

同断 阿古 長柄

同断 阿古 長柄

同断 阿古 長柄

同断 阿古 長柄

同断 阿古 長柄

同断 阿古 長柄

同断 阿古 長柄

白銀五千兩

總女中

女院御方女中

白銀五百兩綿衣十領

上薦分 一位車 勘解由小路

中納言車

白銀三百兩綿衣六領

中薦分 按察使車

白銀二百兩綿衣五領

外山車

白銀二百兩綿衣四領

御下達分 侍從車

豐後

相模

白銀百兩綿衣四領宛

錦小路車

小督車

中薦分 少將車

同 古知車

御下達分 讚岐車

辨車下同

能登

右近

備後

和泉

珍藏主車

玉車

越前同

夏同

白銀百兩綿衣六領

內侍並
兒一人

白銀五千兩

總女中

以上

行幸ノ日 主上御膳黃金白銀ヲ以製調

晴ノ御膳

御掛盤大小六箇以白銀作之 御茶碗大小各蓋アリ七箇以黃金作之 御皿大小十五箇以黃金製之

御内々ノ御膳

御掛盤一二三箇以黃金作之

御箸 二雙 同斷

御唐蓋臺 一箇 以白銀作之

御銚子 一枝 以黃金作之

御間鍋 二箇 同斷

御食籠但御供 一箇 以黃金作之

御匙大小 二箇 同斷

御蓋 二箇 以黃金作之

御錫 一對 以黃金作之

三重ノ御重箱 一組 以白銀作之

蓋ハ蓋ノ誤歟

は

御鉢大小 二箇 以白銀作之

御金色蓋有 二箇 以白銀作之

御菓子盆高衝 三箇 以黃金作之

御手拭掛 三箇 以銀作之

御風呂 一箇 以金作之

御水指蓋有 一箇 同斷

御柄抄立 一箇 同斷

御茶入棗 一箇 同斷

御小壺但肩衝 一箇 同斷

御茶碗 一箇 同斷

御鏡臺 一箇 時繪

御耳盥大小 二箇 以銀作之

御齒黒入 二箇 同斷

御五倍子箱 二箇 同斷

御椽次卷繪 一箇 同斷

御湯次蓋有 一箇 以黃金作之

御提子蓋有 一箇 同斷

御衣桁 二箇 以白銀作之

御臺子 一箇 同斷

御釜環有 一箇 同斷

御水滴 一箇 同斷

御蓋置 一箇 同斷

御中次 一箇 同斷

御臺天目 一箇 同斷

御臺 一箇 時繪

御椽角盥 一組 以銀作之

御渡金 一箇 同斷

御齒黒繼 二箇 同斷

御鵬飼茶碗附御 二箇 同斷

御香爐内一箇 二箇 同斷

御香盆 一箇 同断
御香合伽羅 二箇 同断
御焼返入ノ臺 二箇 同断

御香爐内一箇 二箇 同断
御焼物入棗 二箇 同断
御香箸灰推銀挾 一縮 同断

中官ノ御道具

御茶碗大小 七箇 内外銀
御掛盤一二三 三箇 以銀
御錫蓋アリ 一双 同断
御重箱 一組 同断
御湯次蓋アリ 一箇 同断
御提子蓋アリ 二箇 同断
御衣桁 二箇 同断
御臺子 一箇 同断
御釜環アリ 一箇 同断
御水滴 一箇 同断
御蓋置 一箇 以銀

御皿大小 十五 内外銀
御食籠但御供 一箇 同断
御間鍋蓋アリ 二箇 同断
御鉢大小 二箇 同断
御金色蓋アリ 一箇 同断
御菓子盆大小 二箇 同断
御手拭掛 一箇 同断
御風爐 一箇 同断
御水指 一箇 同断
御柄抄立 一箇 同断
御臺天目 一箇 同断

御茶人 一箇 同断
御鏡臺 一箇 同断
御鏡 一箇 同断
御油桶 一箇 同断
御掛箱 二箇 同断
御櫛箱 一箇 同断
御齒黒入 二箇 同断
御渡金 一箇 同断
御茶碗御化粧 二箇 同断
御耳盥大小 二箇 同断
御香盆 一箇 同断
御香箱伽羅 二箇 同断
御香灰推銀挾 二箇 同断
女院ノ御道具

御中次 一箇 同断
御匣 一箇 同断
御白粉箱 二箇 同断
御五倍子箱 二箇 同断
御白粉解御香合 二箇 同断
御沈箱小道具 一箇 同断
御齒黒次 二箇 同断
御鶉飼茶碗附御 二箇 同断
御椽角盥 二箇 同断
御硯箱御小道具 一箇 同断
御香爐蓋アリ 二箇 同断
御焼物棗 二箇 同断
御焼返入壺蓋アリ 二箇 同断

七箇 内外銀

御皿大小

十五 内外銀

御掛盤 <small>三一二</small>	御箸	御唐蓋臺	御錫 <small>蓋アリ</small>	御間銅 <small>蓋アリ</small>	御鉢 <small>大小</small>	御金色 <small>蓋アリ</small>	御菓子盆	御手拭掛	御風爐	御水指	御蓋置	御臺天目	御茶入 <small>棗</small>	御鏡臺
三箇 <small>以之銀</small>	二箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>
御食籠 <small>御供</small>	御匙 <small>大小</small>	御蓋 <small>大小</small>	御銚子 <small>蓋アリ</small>	三重御重箱	御湯次 <small>蓋アリ</small>	御提子 <small>蓋アリ</small>	御衣桁	御臺子	御釜 <small>環アリ</small>	御柄抄立	御水滴	御茶碗	御中次	御匣
一箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>

御鏡	御油桶	御掛筒	御櫛箱	御齒黒箱	御齒黒次	御鶴飼茶碗 <small>附御</small>	御椀角盃	御硯箱 <small>小道</small>	御香爐 <small>蓋アリ</small>	御燒物入 <small>棗</small>	御燒返入壺	女一宮御道具	御茶碗 <small>大小</small>	御掛盤 <small>三一二</small>
一箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	一組 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	女一宮御道具	七箇 <small>内外銀</small>	三箇 <small>以之銀</small>
御白粉箱	御五倍子箱 <small>小大</small>	御白粉解香合	御沈箱 <small>小道具</small>	御齒黒入	御渡金	御茶碗 <small>御化粧</small>	御耳盃	御香盆	御香箱 <small>伽羅</small>	御香箸灰推銀鉢	御皿 <small>大小</small>	御食籠 <small>御供</small>	御皿 <small>大小</small>	御食籠 <small>御供</small>
二箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	二箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	一箇 <small>同斷</small>	十五 <small>内外銀</small>	一箇 <small>以之銀</small>	十五 <small>内外銀</small>	一箇 <small>以之銀</small>

御箸	二双 同断	御匙 大小	二箇 同断
御唐蓋臺	一箇 同断	御蓋 大小	二箇 同断
御銚子 蓋アリ	一枝 同断	御錫 蓋アリ	一双 同断
御間鍋 蓋アリ	二箇 同断	三重御重箱	一組 同断
御鉢 大小	二箇 同断	御湯次 蓋アリ	一箇 同断
御菓子盆 大小	二箇 同断	御提子 蓋アリ	一双 同断
御衣桁	二箇 以銀作之	御手拭掛	二箇 同断
御臺天目	一組 同断	御鏡臺	一箇 同断
御匣	一箇 同断	御鏡	一箇 同断
御掛筒	一箇 同断	御白粉箱	一箇 同断
御白粉解御香合 掛箱アリ	一箇 同断	御香爐箱	一箇 同断
御油桶	一箇 同断	御鶴飼茶碗	一箇 同断
御茶碗 御化粧水入	二箇 同断	御櫛箱	一箇 同断
御椽角盥	一箇 同断	御耳盥	一箇 同断
御沈箱 小道具アリ	一箇 同断	御硯箱	一箇 同断

御香盆	一箇 同断	御香爐	一箇 同断
御香合	一箇 同断	御燒物入 棗	一箇 同断
御香箸灰推銀挾	一箇 同断	御燒返入 棗	一箇 同断
女二官御道具 同前			
右諸道具後被進之			
大相國御膳道具			
御茶碗 大小蓋アリ	七箇 以銀作之	御皿 大小	十五 同断
御掛盤 一二三	三箇 同断	御食籠 御供次	一箇 同断
御箸	二双 同断	御匙 大小	二箇 同断
御唐蓋臺	一箇 同断	御蓋 大小	二箇 同断
御銚子 蓋アリ	一枝 同断	御錫 蓋アリ	一双 同断
御間鍋 蓋アリ	一箇 同断	三重御重箱	一箇 同断
御鉢 大小	二箇 同断	御金色 蓋アリ	一双 同断
御湯次 蓋アリ	一箇 同断	御菓子盆	二箇 同断
御臺天目	一組 同断		

將軍家御膳御道具 同前

以上

(右寛永日記増補卷第二ノ抄録ナリ儘マ誤寫アルカ如シ更ニ別本ヲ以テ校正スルヲ要ス)

吹塵餘録第四冊目録

一作事方定法

御作事方定法

全

定法目錄

初積方箇條順大御場所
定式

附御藏物
木之順 御納戸物
御障割増

御買上物

一 大工手間割合

二 木挽

三 御材木積

四 下拵側掛

五 榧樽木扮方割合

六 漆喰調合

七 榧樽木様扮之部

附土居管道具物仕形
渡櫓大御門冠木御門共揚方木道具大概

八 山挽物寸法

九 瓦座挽違寸法

附樽木古今之違
山扮葺板其外品々

飛騨尾州樽木割合

十 井ヶ輪樽木遣

附

鈞瓶多賣竹其外品、木舞竹卷竹上裏賣竹菱竹矢來等

十一 御藏石并賣石

十二 釘積并鏝其外鏡物

十三 御藏銅御買上銅竿鉛

十四 鏝方

十五 塗師方

十六 諸金諸木石其外目方

十七 土瓦寸法并瓦積

十八 石灰土砂積并壁方

十九 紙積并紙寸法

二十 小買物積方并箇物貫目

廿一 足代方

廿二人足積并車積

附

并戶堀人足之事
堀拔其外仕方之事

廿三 取木方并船積

附

草取船仕様

廿四 一ヶ年御入用高

廿五 定小屋ノ諸場所ノ道法

廿六 御作事奉行持場

廿七 諸方日履

廿八 勾配隅木延定率

廿九 御翠簾積方

附京升寸法 山挽物步附

山挽板割

小割物

諸方御手傳割

初積方箇條順

大御場所

一大工

一彫物大工

一木挽

一杣 臺伐

一板挽

一鍛冶方

一鏝方

一鑄物方

一繪方

一石灰摺

一塗師方

一箔方

一屋根方

一瓦方

一壁方

一建具方

一指物方

一張付方

一御翠簾

一桶方

一石方

一砂利方

一土方
一足代方
一小買物方
一人足地形方
一湯小屋人足

一附芝
一小屋竹矢來
一取木運送
一小使人足
一諸方雜具代

定式

一棟梁勤
一木挽
一鍛冶方
一塗師方
一瓦方
一建具方
一張付方
一石方

一大工
一板挽
一鏝方
一屋根方
一壁方
一指物方
一桶方
一砂利方

一附芝
一足代方損料物
一取木方
一御買上物

一黒田乙土地形土
一小買物方
一人足方
一丸太竹挽木挽板石等

一掘油
一諸紙
一蠟燭
一晒布
一瓦代
一船代

一山挽物
一挽板
一丸太
一竹
一扮板
一月役
一石類

御藏物

一御材木并板板子樽木丸太竹扮板赤檜白檜等
一運上石灰

一諸石并割栗石

一銅板地丁銅山丁銅

一漆

一大磯砂利

一鉛板

一大坂瓦

御藏物

一御材木一件

一銅板地丁銅

一鉛

一大坂瓦

一石類

一銅瓦鉾

一漆

御納戸物

一朱

一弁柄

一紺青

一土朱

御買上物

一繪具代

一瓦代

一漏油代

一御幕晒布
刺字布

一諸紙類

一勤料

一箔代

一唐木代

一唐紙代

一蠟燭代

一筆墨

一繪圖師

物書料

木之順

一檜角

一槻角

一榎角

一赤松

一椴角

一檜葉

一檜板子

一黑部板

一唐檜板

一椴板

一松板

一杉板

一 桂角
一 唐檜
一 姫子
一 松角
一 杉角
一 栗角

一 榑木
一 槻丸太
一 松丸太
一 杉丸太
一 栗丸太
一 竹

御障之節
割増覺

一 大工
但上場所六分は掛其外御障貳割増
五割増

一 鎊方
但下廻り上場所仕事小分ハ貳割増
三割増

一 塗師方
瓦方
石方
足代方
貳割増
但瓦方御門明三割増足代方御上家は五割増
壹割五分増

一 屋根方
壹割五分増

但御退出後取掛五割増

一 壁方
貳割増
一 張付方
五割増
一 人足方
奥向直段用

一 大工

一 大工割合
上下拵四分
上場所六分
下拵四分
御退出後下拵四分は四割増
御障度々手引貳割まゝ
上場所六分は五割増
下拵四分割まゝ無

一 駒場野御場所
上場所六分は四割増
下拵同斷
猿江御場所之大工は割増無之
右三口大工計也

一 下手間壹人ニ而上手間貳人四分當
但正人壹人五分壹人也
壹人五分壹人也

右御障御場所御退出後取掛駒場野御場所三口共割増大工高は木挽割合まゝ
一 上大工 壹人五分壹人也
一 上大工 壹人五分壹人也
一 上大工 壹人五分壹人也

一中大工 壹升五分
一下大工 壹升五分

一中大工 六升
一下大工 四升五分

右下三口ハ古ヘ之事也

大工口米壹人之内貳合ツ、大棟梁ハ懸當時中大工也

一國役大工ニ而積時ハ手間を積半減ヨリて米計を立木挽も同斷之事
大工國役高處、大工町より出
尤町内小間割也

一千七百拾七人 大工壹人ニ付 銀ちり米壹升五分

内 千貳百拾七人 御本丸
五百人 西丸
元大工町四百六拾貳人半 豎大工町五百四人半
南大工町三百七拾人 横大工町三百八拾人

大工坪掛 一件
雨落坪

一總而修復坪掛之節外廻リ下見籠縁羽目と本途文言之内ニ無之由ニ而別段手間立來候得共
土臺取替柱根繼等之床修復下見差置候而之成間敷候既ヨ文言之内ニ籠縁下見斷有之候得
と取拂繕取付之儀同前之事ニ付別段手間立候儀ニ及間敷候
一二階根太板と本途ニ貳割半増立來候得共中之御家ニ荒木遣有之間敷床下ニ成候故薄削候

ハ、床下厚可削候下部屋向ならハ二階有之間敷候左候得と上を下ニ敷候間別段之割増ニ
及間敷候
一惣而反り物之節と五割増立來候得共壹本付手間ハ平均ニ而見込可有之ニ付割増ニ及申
間敷候破風裏甲割増有之候而も可然候

一塗物下地本途ニ三割増立來候得共是と都而割引等有之可然候左なく共御家向本途見合候
程之品ニ候ハ、割増ニ及間敷候木地顯を候塗物等ニ候と格別之儀も可有之候

一堀樽縁等修復之本途不相用新規割引致候も有之候仕事ニ付區々ニ而修復見分等混雜致
候故新規より割引致候義と有之候得共一鉢修復手間付と工數少ニ付新規手間より割引
致候様可致候大破ニ付取拂足木修復之節と仕事柄修復手間付ニ見合新規手間割引致
相立可申候

附ケ札
本途壹坪付之内籠縁下見之手間付有無共見込候積仕間敷候但御修復仕様本途文言よ
り格別重籠縁下見も多分有之候ハ、御吟味之節割増等相立候積仕度奉存候塗下地ニ
付割増之儀以來と御書面之通可仕候

但堂社向ニ付候處本途之壹本付手間より御見合ニ相成と其物より御吟味之節割
増相立候様仕度奉存候

二階根太板反り物割増堀榑縁御修復手間之儀御書面之通可仕候

成五月

大棟梁
四 人

一御本丸西丸増上寺共定式御入用積立候而五拾兩以上ニ相成候得と勤料積立候事

但外ヶ輪御役屋敷向等と少く之御入用高ニ而も勤料積立候事

一大工手間付立候上ニ而數高寄何人何分

但五分以上と半人相立
五分以下と拾る

一御修復手間付仕方と床之坪懸と腰通より下を坪懸ニ致ス

一鴨居中敷居木格子窓造り物其外好事之分と別段ニ手間付致候事

但羽目窓下と床坪ニ籠る高サ壹間より高き羽目と別段手間付致取替柱も別段也

一屋根御修復と軒桁より上と坪懸致ス軒桁其外小屋道具類と別段手間付致ス

一雨落坪を出ニと屋根坪を十二ニ而除

一屋根坪を出ニと地之間より軒出を加へ勾配延十二を乗

一明和九辰年所く焼失御用之節と御櫓御多門大番所向等雨落坪付立候處御立會吟味ニ而雨

落坪を不用地坪に貳割五分五厘五毛増ニ相成

但先年幸橋御門之御見合之由也尤雨落坪同様之割ニ當る

一化粧軒張物御家向大番所御櫓御多門共新規物地坪ニ不構雨落坪を用

一天明五巳年増上寺御装束所大方丈向新規御普請之節吟味役倉橋與四郎并支配改方加藤古

平引合ニ而雨落坪と一鉢ニ不致地坪之外ニ軒張坪をめのこニ寄上ヶ加へる同坪當之手間

甲乙なニ懸伺相濟申候

但地坪ニ貳割五分増ニ當る

一廣木舞之木品軒物

御家向ニても御役屋敷向ニても新規物之節雨落坪を不用地坪を用

一御家向其外御役屋敷共一鉢之屋根修復と雨落坪を直し手間を付ル也

一同斷屋根之内所く見切御修復之砌と雨落坪ニ不直屋根坪は手間附ル也

一渡御櫓之大御門坪懸ニ致し候仕形櫓臺石之方棧梁外面と出し桁之外面とを押し坪懸ニ

て掛る

右と寶曆十三未年十一月御勘定所より申越惣鉢御作事方御家向并御役屋敷長屋等迄大工

手間附之儀と御役所ニ而前より雨落坪ニ付來候由彌右之通雨落坪ニ大工手間附候哉否

之儀芹澤彌右衛門方迄可被仰聞旨申來ル

答左之通

惣躰大工手間附之義雨落坪ニ手間附候哉之儀御尋御座候新規御修復共軒出端多御家向ニ
建家地坪ニ而手間不足ニ付雨落坪ニ而手間附致候則左ニ相記申候

一御修復之節ニ本途相極候節より前ニ御修復有之候ニ付寶曆二申年願之上雨落坪ニ仕候様
被仰渡相濟申候

一新規御普請之儀ニ右本途相極候以來ニ丸御普請之節御殿向并御舞臺共雨落坪數ニ而手間
附致候

一軒出端廣木舞ニ而相濟候御屋根向輕き長屋向御地坪ニ而手間附致候茅負裏甲化粧木舞
軒ニ出端長短有之候得共何とも雨落坪ニ而手間附致候事

十二月

御作事方

二 木挽割合

一本木ニ勿論山挽物々本木少く入交候共

新規三割四分
修復貳割九分

但廉ニ有之内一廉切皆山挽物計ニ而出来致候分ニ新規修復共木挽割合無之

一假板圍之類柱杉丸太胴縁等脊貫羽目御藏挽板又ニ山挽板等遣候類

新古割合相立

一柱杉丸太胴縁山挽貫羽目御藏挽板遣等廉立候御入用何ニ不寄本木無之丸太皆山挽物計ニ
而出来候分ニ

新規
修復 共木挽割合無之

一廉御入用之内竹釘等拵其外竹仕事致候大工木挽割合無之

一小仕事 本木并脊板ニ而出来致候分ニ勿論御藏挽板并山挽
板ニ而出来致候箱類之内少分あり共挽木遣候處

新規三割四分
修復貳割九分 割合相立

但箱類山挽板御藏挽板ニ而も其外何ニ不寄挽木無之皆山挽物計ニ而出来致候
分并小箱之類裏棧紐通手掛棧等有之候而も挽木遣ひ不申分ニ木挽割合無之

御假物御取立御入用之内

一御成先詰日雇大工

是ニ本工大工之木挽割合ニ准シ日雇大工も木挽割合相立本文
皆山挽物ニ而木挽割合無之候ハ、日雇大工も木挽割合無之

一定式詰大工 木挽貳割九分之割合相立

一見分計相勤候日雇大工木挽割合無之

一御障り有之候而割増差加候共右割増計之大工ニ木挽割合無之

右木挽割合以來共區々之儀無之様張出

一板挽巾九寸五分 片面ノ寸法折廻ニ而壹尺之巾トナル也

厚七分 以上長壹間六巾壹尺五を壹枚トス

右百枚ニ付

代銀四拾貳匁五分

大場所共建具方新規共

御材木壹尺角壹本ニ付五通之大割木挽相立候事

右板挽拾枚之御入用積入候事

先前之通挽ハ九分也

一本木通り挽

長貳間壹通ニ付代八分五厘

但壹匁五分之人ニ直一人と出ル

大伐壹組銀三匁但壹人壹匁五分

木挽國役高

一貳百三拾五人 壹人ニ付銀ハ一匁

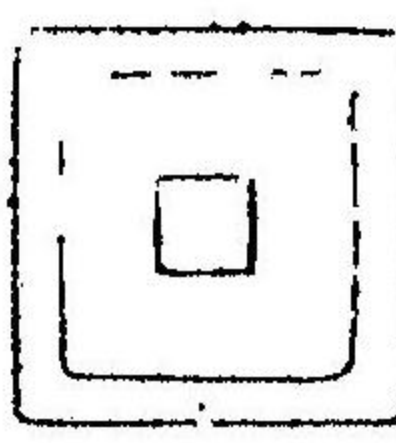
是を大鋸町より出尤町内戸間割あり

一差渡ノ物何ニ不寄經計ニ而割合いさひあり

桶方筋方鍛治方其外共圓法積法不用之

一建具に相渡候御材木積立候節建具本途之大サに挽シ口別レ場所を五分類ニノ尺メ高上ケ
定式三分カハニノ同斷

但此六之割内四割増ニ當ル

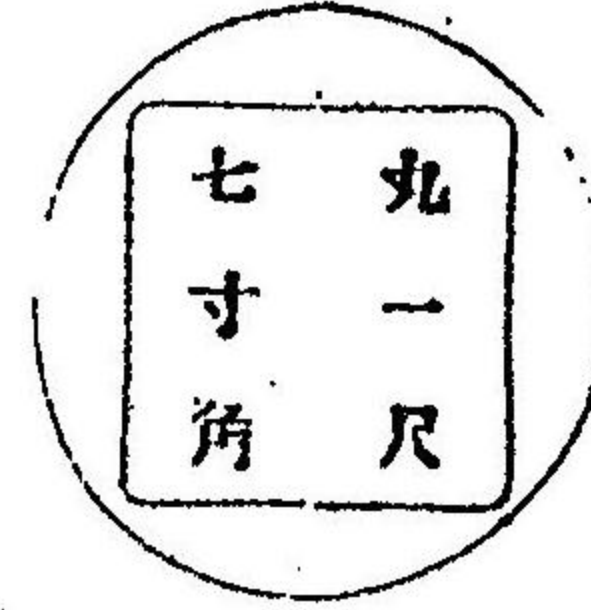


尺角をかき壹寸ツ、ムキ眞貳寸四分六厘殘尺メ六分トナル依而右を法トス

建具御材木宅下ケ之節

荒木を斷高壹割三分引
挽木を割合貳割五分引

一丸差渡何尺ニ而も七を掛時と何寸角トナル



但十四ニ而切而も何寸角トナル丸差渡一尺

丸差渡に三一六を乗て周を延し何尺トナル

但廻りを延し何尺を三一六ニ而切レハ差渡何寸角トある也

丸キ物之坪を出ス時差渡尺寸を掛合せ七九を掛れハ全之坪也

田舎間坪ハ八五二〇七一を乗れハ京間坪ニナル

尺間數之時六五坪を出ニ之間數は何尺を懸六尺五寸ニ而割知ヘ

三 御材木積凡定

一 貳寸以下 三分側

一 貳寸より 四分以下 五分側

一 七寸五分以下 壹寸側

一 七寸五分より 壹尺以下 貳寸側

右ニ榑椽栗赤松通例之皮掛椽檜ニ而も場所位ニ寄右寸法通皮掛積立候事

下札

扣柱根七寸より貳寸側

但椽椽目無之削有之遺方ハ右側之凡一倍之積榑椽ニ而も上削格別之品ニ可依其時事

下ヶ札

椽 三寸側
柱 貳寸側

五寸角以上壹本取之分 是迄之通尤御場所柄之分を其時ニ評議之事
右之外分廻シ之分ハ是迄之通尤御場所柄之分を其時ニ評議之事
文化七年二月廿二日極ル

橋板 八寸 但削立五寸角也張出柄束際之
分削立五寸木積七寸也 前同時極ル

矢作橋末口椽杭往桁共七九ヲ掛長ハ京間也尺ノ如斯もの大小ニ不拘其物之壹本と定る迄ニ毛懸合差出ノ物之壹本となり其上ニ而毛を切捨何木に懸ル

御材木墨掛

一 壹寸四方ハ 壹寸貳分角 一 壹寸五分角ハ 壹寸八分

一 貳寸四方ハ 貳寸五分 一 貳寸五分ハ 三寸
一 三寸五分ハ 四寸 一 四寸ハ 四寸五分
一 四寸五分より 五分側 一 八寸角以上 壹寸側
一 七寸迄

四 下拵

一 御材木遣方帳

立帳 三册 榑下拵 榑梁扣 壹册ツ

一 御材木送留帳

同 壹册 練梁扣

但猿江より來ル送帳之通可認

同 壹册 右同斷

一 御材木引落留帳

但右帳面好所は御材木其物之積高之木敷を一ヶ打致認置腹書ニ
着木之御材木敷を認一打高は懸紙致一其度ニ引落候木高認置候事ニ
肩書致 一 木口割帳 三四册 ホト

但木口割致立會方見届印形取候事

一 挽板渡方帳

同 壹册

但右同斷

御材木遣拂割合

一 椽を 出高ニ四割増 六ニ而割

一 雜木を 出高ニ貳割増 八ニ而割

但脊付割合有之
荒木を勿論不及割増

一 躰四方むきと押候もの故右之四割貳割を四割

壹方脊附を 三ツ之増

貳方脊附を 貳ツ分之増

三方脊附を 壹ツ分之増

脊板脊貫共 厚壹寸以上を割増を不懸其儘尺ノニ而造

拂を立ル厚九分以下を一向ニ遣拂ニ不出

三方脊付如斯 替ハ八分之脊板あらハ五分を捨
故ニ一方之増也 三分ニ巾を懸歩ニ出
是を月帳并出來跡物等定式ニ而用之

一 挽板を 出高ニ壹割増

一 完料を 出高を三九ニ而除
但板小割物何ニ而も寸棒之寄上高を三九ニ而割
荒木挺敷と成

長六尺五寸
巾壹尺五寸
厚五寸 板子 定法 荒木寸棒七拾五本也
挽木寸棒三拾五本也

寸棒何拾何本を御材木尺ノニ直を

一〇四ニ而割

完料板子共長六尺五寸内外之節を長巾厚掛合セ六五ニ而割其上三九ニ而除何拾挺と成
完料を本木ニ直と何本何分を三七五を掛

一 御材木歩廻貳間木壹尺角を尺ノ壹本と定

大サ長を懸合左之法を用て尺ノを知る

一 壹間ハ 五を乗 一 壹間半ハ 七五を乗

一 貳間ハ 則壹本 一 貳間半ハ 一二五を乗
八ニて除も可也

一 三間ハ 一五を乗 一 三間半ハ 一七五を乗

一 四間ハ 二を乗 一 四間半ハ 二二五を乗

一 五間ハ 二五を乗 其餘推て知へ

長間より巾尺之時を巾を六五ニ而切歩より懸合をへ
大サを懸合其物之長サを一倍より掛合四ニ而除てより但貳間一倍より多る四也

五 樁樽木遣拂割合

一 上柿 壹坪ニ付

五尺繩三把
貳挺六厘壹毛

拾七寸
一七寸
足切粉

壹把ニ付

六分八厘七毛

一銅下葺

長拾枚份
一寸三分足

壹坪二付

五尺繩三把
一挺五分八厘五毛

一中桶

拾貳枚份
一寸二分足

壹坪二付

五尺繩貳把半
壹挺五分六厘四毛

但拾枚份
片取板面

壹坪二付

六分貳厘五毛六

一土居葺

拾四枚份
一寸五分足

壹坪二付

五尺繩貳把
壹挺貳分五厘

但道具物三口同斷之割合

瓦塙

拾四枚份
一寸五分足

壹坪二付

五尺繩貳把
壹挺九厘三毛

但右同斷

五分四厘六毛五

瓦下

貳寸五分足
長壹尺三寸

壹坪二付

三尺繩九把
四挺五分九厘四毛

但拾枚份
片取板面

壹坪二付

五分壹厘〇四五
三把繩八把
貳挺九分八厘六毛

瓦下

壹尺貳寸

壹把二付

三分七厘三毛二五

但右同斷

一棟折板

長六間二付壹挺
貳尺繩二ノ三把

一古板葺壹坪當

中柿ハ三尺繩拾五把程
土居葺ハ三尺繩拾把程

六漆喰 檜割 手桶割

一壹樽分 石灰五斗七升五合

但壹樽ニ而八手桶也
壹樽ニ而貳坪半塗

一手桶 七升壹合八夕七才五

二手桶 壹斗四升三合七夕五才

三手桶 貳斗壹升五合六夕貳才五

四手桶 貳斗八升七合五夕

五手桶 三斗五升九合三夕七才五

六手桶 四斗三升壹合貳夕五才

七手桶 五斗三合壹夕貳才五
八手桶 五斗七升五合則壹樽也

壹船五樽煉之割合

貳石八斗七升五合之内粕貳割引
正味貳石三斗
六貫六百五拾目之内風袋引
正味六貫貳百五拾目
四貫六百五拾目之内風袋引
正味四貫貳百五拾目
正味三升七合五夕

壹樽分割合

五斗七升五合之内粕を引
風袋引
正味四斗六升
正味壹貫貳百五拾目
同
正味八百五拾目
正味七合五夕

一鼠漆喰調合物

石灰壹石二付 握墨貳貫百七拾四匁
壹樽二付 握墨壹貫貳百五拾匁
一白土調合物壹坪二付

石灰
布海苔
葎苻
瀝油

石灰
布海苔
葎苻
瀝油

石灰 六升九合
布海苔 百五拾目
紙苻木座半紙 六拾枚

石灰壹石二付 瀝油壹升三合

荒灰と粕之分貳割引ニ而正味灰ニ成

五樽煉之船

大サ 横三六尺 深壹尺壹寸 宛貳ツ並土中ニ高サ半分堀埋置
但蓋板共厚貳寸ツ

右之通定小屋木拂方役所看板貳枚ニ認有之

七樽木樣扮之部 屋根壹坪積
但樁大樽木長六尺五寸當

御殿向

一上楠 拾枚扮 壹坪二付
板長一尺 壹挺七分三厘八毛
壹寸釘五拾本 但壹挺撰

拾枚扮ハ厚一寸ヲ
十枚ニヘダナリ以
下此ニ倣フ

御成茶社
成茶社
御屋門

一上柿 拾枚拵 長九分 尺分 壹寸釘五拾本 同

五尺繩四把 壹挺九分三厘壹毛 但壹挺撰

御茶屋 小御茶屋 壹之册座庇

一木賊葺 壹分半 長一尺一寸一分 壹寸釘六拾本 同

五尺繩八把 三挺三分貳厘貳毛 但壹挺撰

御舞臺棚葺

五步棚 貳寸足 板長壹尺五寸 貳寸釘四百本打

九寸巾ニノ貳拾五通 九把半 八挺三分六厘八毛 但壹挺撰

四下棚ニ限軒付別段 樽木積ニ不及事

四步棚 壹寸八分足 長壹尺四寸 貳寸釘四百本打

九寸巾ニノ貳拾通 拾三把 六挺貳分壹厘壹毛 但壹挺撰

三下棚 壹寸五分足 長壹尺三寸 壹寸五分釘四百本打

八寸五分巾ニノ貳拾七通 拾貳把半 但壹挺撰 四挺八分三厘九毛

貳步棚 壹寸貳分足 長壹尺貳寸 壹寸五分釘四百本打

七寸五分巾ニノ四拾通 拾三把七分 但壹挺撰 三挺貳分貳厘六毛

三重御櫓堂社向 渡御櫓御多門御土藏 共

一瓦下棚葺

三下棚 貳寸五分足 長壹尺三寸 壹寸五分釘百本打

壹坪ニ付 三尺繩九把 四挺五分九厘四毛

貳下棚 貳寸足 長壹尺貳寸 壹寸五分釘百本打

同 三尺繩八把 貳挺九分八厘六毛

壹下半棚 壹寸五分足 長壹尺壹寸 壹寸五分釘五拾本打

同 三尺繩七把 貳挺四分三厘五毛

拾枚棚 壹寸五分足 尺板七寸切 壹寸釘五拾本打

同 五尺繩三把半 壹挺六分三厘貳毛

外ヶ輪

一上柿 拾枚拵 壹寸足 板壹尺七寸切

壹坪ニ付 五尺繩三把 貳挺六厘壹毛 但壹挺撰

一中柿 拾貳枚拵 壹寸貳分足 板壹尺七寸切

壹坪ニ付 五尺繩貳把半 壹挺五分六厘四毛

壹寸釘三拾本打

一銅下葺

拾枚扮
壹寸三分足
長壹尺

同

五尺繩三把
壹挺五分八厘五毛

壹寸釘三拾本打

一土居葺

拾四枚扮
壹寸五分足
板壹尺七ツ切
壹寸釘貳拾五本打

同

五尺繩貳把
壹挺貳分五厘

一瓦塚計之八ツ切

壹坪ニ付

壹挺九厘三毛

一棟折

六間ニ付
壹挺足板間敷を六ニ而切へ
何挺何分ト出

屋根古板用たへは古板三分一用之節ハ大棟長サ之三分一丈之棟折板積出候事

一指板釘ノ之節其物之四分一を用

壹坪ニ付

壹挺貳分

一薄柿葺



五尺繩葺板壹把大サ
如此



三尺繩葺板壹把大サ
如此

軒附之事

一屋根軒附三枚以下ハ別段樽木積不致事 五百四拾枚

但七ツ切ニ候得テ軒付無之四枚以上同斷之積葺葺御舞臺并堂社向軒板蛇腹等壹坪當之外也
軒付始ニ取付を裏板ト云長六寸厚四分程右之下ニ取付ルを軒付ト云凡長三寸厚三分

一同斷四枚以上ハ長壹間厚壹尺其物之壹坪積候事

一格立候御場所ハ其節様相定可申事

寶曆十二年閏四月

瓦下棚類中柿土居葺道具物仕形

三卜棚

一谷板

長壹間
巾壹分五厘

貳百三拾四枚
但平均四拾枚詰貳尺繩ニ

五把八分五厘

一傍取

長壹間

百五拾六枚
但右同斷

三把九分

貳卜棚

一谷板

長壹間

貳百九拾貳枚
但平均五十枚詰貳尺繩ニ

五把八分五厘

一 傍取 長壹間

百九拾五枚
但右同斷

三把九分

壹下半棚

一 谷板 長壹間

三百八拾七枚
但平均七十枚
請貳尺繩ニノ
但右同斷

三把六分八厘

一 傍取 長壹間

中柿
榑木壹挺貳分壹厘六毛

四百八十六枚
但平均八十枚
請貳尺繩ニノ
但右同斷

六把八厘

一 谷板 長壹間

三百貳拾四枚
但右同斷

四把五厘

一 傍取 長壹間

同壹分貳厘八毛

五百四枚
但平均六拾枚
請貳尺繩ニノ

九分

土居葺

榑木七分七厘四毛

三百八十七枚
但平均百枚
請貳尺繩ニノ

三把八分七厘

一 谷板 長壹間

同三分六厘八毛

貳百五十八枚
但右同斷

貳把五分八厘

一 片正 長壹間

同八厘七毛

四拾三枚
但平均七十枚
請貳尺繩ニノ

六分壹厘

一 谷板葺候坪

長壹間
巾壹分五厘

一 傍取片正葺候坪

長壹間
巾三分

榑木三分三厘三毛

一 棟折 長貳間

貳尺繩壹把

一 中柿古板 壹坪

三尺繩十五把程

一 土居葺古板壹坪

同斷拾把程

榑木積高ノ何挺何分ト成五分以上ハ壹挺と成五分以下と切捨ル

但棟折新葺之節と右之内ニ籠る

別場所屋根板榑木積と全挺數ハ四割増前と見合也 定法ニ而シテ足り不申故也

一 杉皮葺 貳寸足壹坪ニ付五把九分

渡櫓大御門 共
冠木御門

揚方木道具大概

腰結 松丸太長三間ハ貳間位
末口六寸ハ五寸位

切立共 松丸太末口四寸五分ハ三寸五分位
強張共 角物ナレハ五寸位

無双臺槻三間 壹尺壹寸九寸

竿木 梅長貳間半の貳間迄
大サ七寸角の五寸角位迄
枕木 大サ六寸長間半位
五寸長間半位

但木敷の見計可出

- 一 離場所 二 而臺輪有之候者柱取替之節を揚方并籠積候
- 一 橋杭拔方より込方共并籠木積込候
- 一 御材木揚場有之候節波渡場木積り込候事

八山挽物寸法

一大貫	尺ノ三厘六毛	杉長貳間	四寸	壹寸	四丁
一中貫	同貳厘五毛	同斷	三寸五分	八分	七丁
一小貫	同壹厘九毛	同斷	三寸	七分	九丁
一次貫	同壹厘三毛	同斷	貳寸五分	六分	拾五丁
一小割	同壹厘貳毛	同斷	壹寸三分	壹寸	拾六丁

杉貳間

一 貳寸角松	貳間	九尺	四本	尺ノ三厘六毛	拾貳丁
	壹間	八尺	六本	尺ノ七厘九毛	拾五丁
			八本	尺ノ八厘壹	拾六丁

但八寸角十六わり

一大三寸松壹寸七分角 貳間 九尺 六本 尺ノ貳厘六毛

但七寸角十六割 九尺 八本 尺ノ一厘九毛

一中三寸松壹寸五分角 貳間 九尺 八本 尺ノ貳厘

但六寸角十六割 九尺 十本 尺ノ壹厘五毛

又ハ松壹寸七分半 但五寸角十二割

一次三寸松壹寸貳分角 貳間 九尺 十本 尺ノ壹厘三毛

但五寸角十六割 九尺 十二本 尺ノ九毛

右大三寸 共墨掛不同と被存候

右六ひら有之品多候何きニも寸法有増之法ニ而尺ノ當り付能方を用へ

一月役

長壹間 壹寸五分

尺ノ五厘

壹束 千挺結

月役又月役賣トモ
云フ扮キタルモノ
ナリ

一敷居木 長九尺間 貳四寸 尺ノ七厘三毛
同 壹間 同 三厘六毛

定小屋 小割物定

一胴縁 貳間貳寸五分 尺ノ三厘

一目板 同 貳寸五分 同 壹厘

一四分市 同 七分角 同 四毛

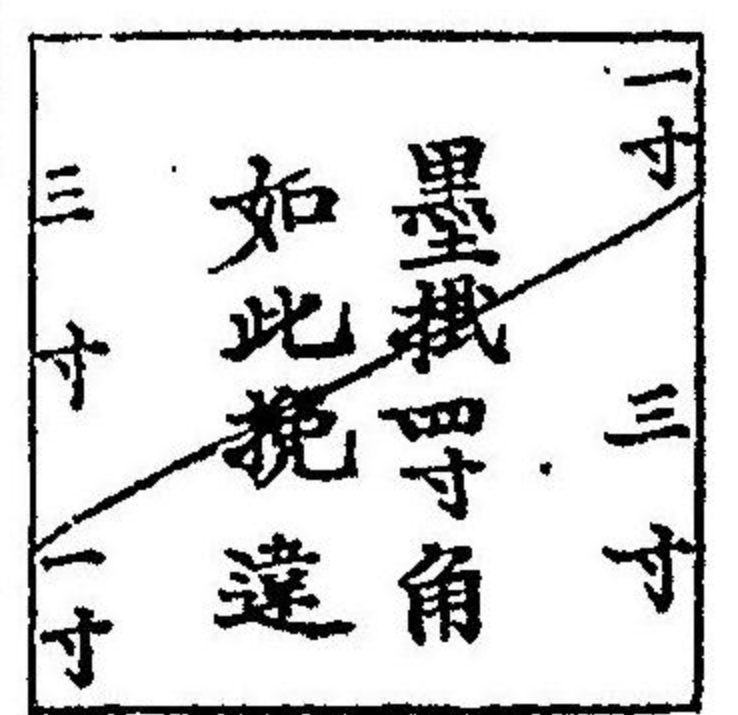
一棟押縁 同 八分 同 貳厘四毛

右ノ輕き御家ニ用尤御場所ニ寄不用笠木堀杯ニ用

九瓦座挽違寸法

天明三卯年三月廿五日極以來下拵方ニ而如此致吟味方ニ而も此趣ニ而積り出候故瓦座寸法右ケ條之外寸違ハ仕様帳ニ相認此寸ト此ケ條ニ逢候品ニ仕様帳瓦座寸法不認事

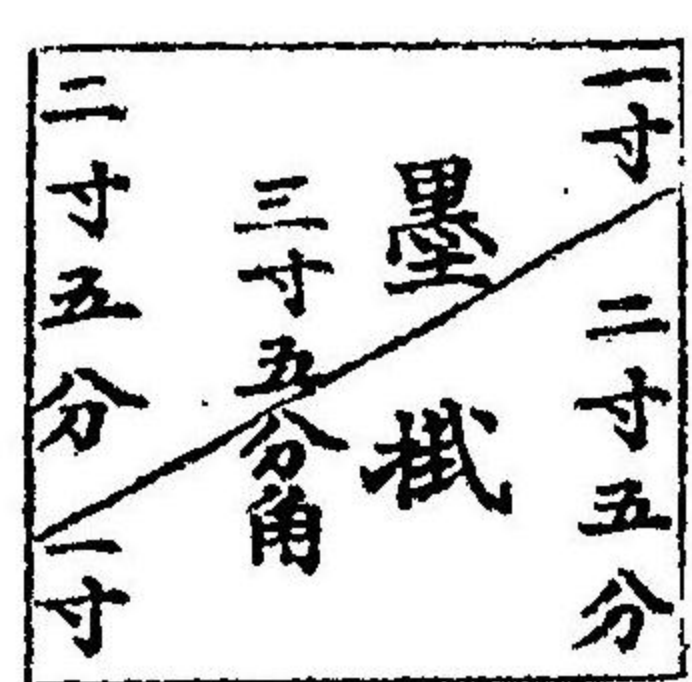
谷筋木ハ 木積三寸五分角挽違ト認



二重御櫓 三重御櫓 渡御櫓 冠木御門 櫓物瓦之所

木積四寸五分角挽違ト認 尺ノ壹分壹毛

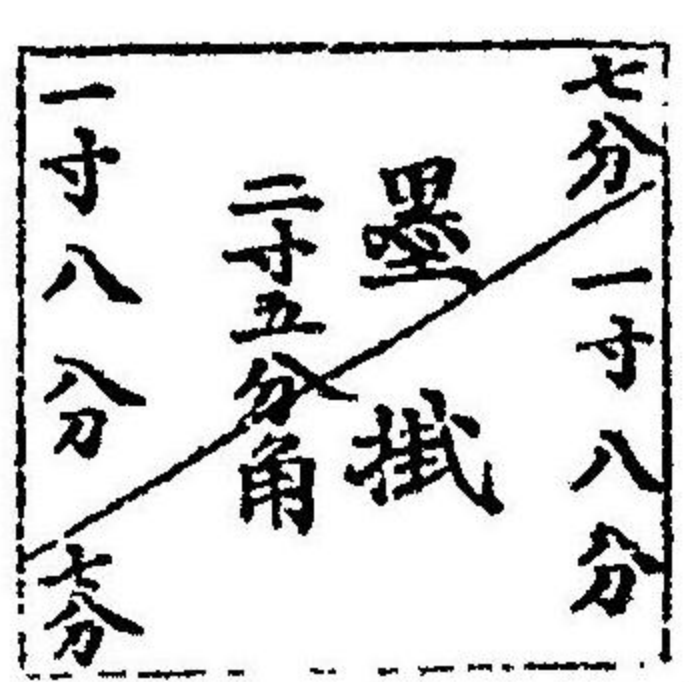
谷筋木ハ 木積三寸角挽違ト認



御多門 向長屋物瓦之所 大番所

木積四寸角挽違ト認 尺ノ八厘

谷筋木ハ 木積り貳寸五分角挽違ト認



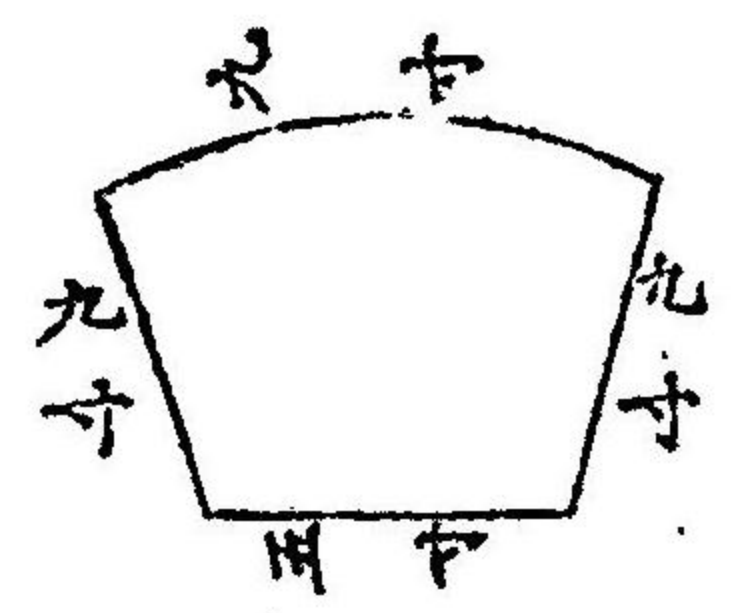
瓦堀庇椽瓦屋根 小丸もの 椽瓦

木積三寸角挽違ト認 尺ノ四厘五毛

谷筋木ハ本瓦御家之方瓦座と壹寸五分角と椽瓦堀之方ハ五分劣りなり

一古來之大樽木

長六尺五寸 腹三方五寸



一當時大樽木

長六尺五寸
大平均五寸

或八寸五分

壹挺ニノ尺ノ八分五厘

一本途完料

長六尺五寸
巾壹尺五寸

此寸棒七拾五本
此尺ノ三分七厘五毛



壹挺ニ付正味三拾九本

尺三
六分
五枚取

尺
五分
六枚取

尺
四分
七枚半取

完料板子本途廻

長サ本途達之時ハ大サを掛合長を掛八を掛三九ニ而除
長サ本途通り六五之時ハ大サ掛合せ七五ニ而除

長五尺五寸榧樽木百挺ニ六五之樽木ニ而拾九挺ニ代

猿江御材木藏ニ而渡方

安永八亥年日光御用之節

飛驒樽木百挺之代り尾州樽木七拾挺請取

一尾州榧樽木

大ニ而長六五尺六より
尺壹迄

五拾三挺七分

右同斷

中ニ而長六五尺八寸迄

七拾六挺

右同斷

小ニ而寸法寸法をい
長六五

百貳拾挺

此後折々尾州樽木之出るニ寄而渡シ方少く違有之其時ニよるハ

尾州飛州樽木割

一飛驒樽木百挺

尾州大ニ而此代五拾挺也但五割引五を乗
尾州代り飛驒樽木を遣候節七五ニ而除

一右同斷

尾州大ニ而此代七拾挺但三割引七を乗尾州大
樽代り飛驒樽木を遣候節七三割増七ニ而除

一右同斷

尾州中樽右同斷

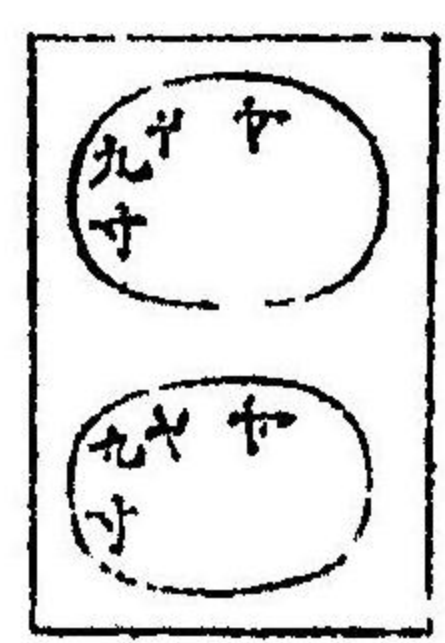
一右同斷

尾州小樽五拾挺但五割引五を乗
小樽代り飛驒を五割増五を而除

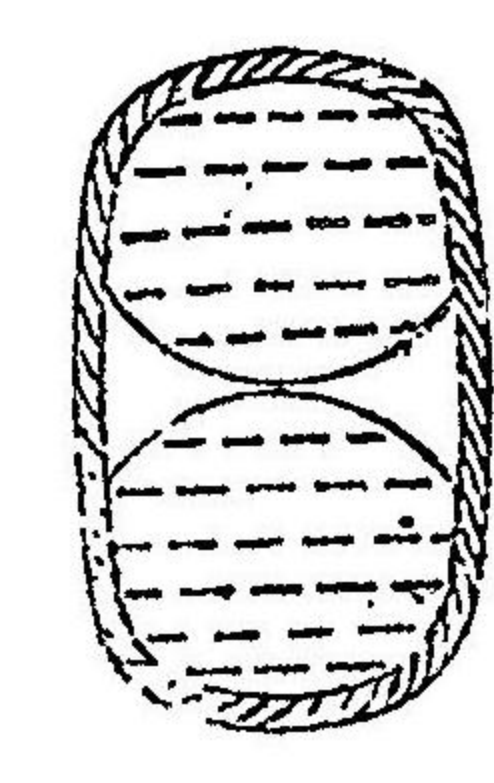
山扮
一杉葺板

但壹坪ニ付
五把當リニ入用也

三尺貳寸繩也
但貳把結之大束を壹把と以請取渡方とも
此壹把ハ如圖貳把也



板小口



一同棟折板

壹把ニ而
十間分トス
長壹尺八寸
大サ
壹尺より
七寸五分迄

一白扮

長四尺
巾八寸厚四厘
壹束數ハ貳百枚

假羽目ニ積候節貳枚重壹枚半繼壹坪ニ付四拾枚當

一月役

木舞壹坪ニ付貳拾五挺ツ

但長壹間
巾壹寸五分から
厚四分

一黒部扮

長壹間
巾八寸
厚六厘

木舞及小樽ニ作ル

一極并根太

壹坪ニ付
長貳間木ニ而
貳本貳分五厘

土壹七寸角位以下繼手間半之半分ツ、も積リ可申事
極間數ニ而之四本ニ而元一を加へる

一板敷并羽目板

壹坪ニ付
巾尺貳
六枚

一野裏板刃重物

同
壹坪ニ付
六枚半

一羽目之
目板

長壹間
五枚

一胴縁

長貳間木ニ而
貳本半

一羽目之
四分市

長壹間ニ付
四本

一屋根木舞

同
長貳間木ニ而
六挺半

六五坪へ拾三挺打ニ當山挽小廻貫を小間返一打

一大引

同
長同斷ニ而
壹本

間大引無之節を壹坪ニ付壹間木壹本

一束

間大引有之節を數三本

一水束

壹坪
長貳間木ニ而
壹挺

十井ヶ輪槍大樽木ニ而壹挺

一積り方口差渡勿論也 三一六を乗し廻り之延尺と成是を出來之六五ニ而除き何挺と成貳挺
取られハ是を貳ツニ割樽木數と成

但御場所柄を壹挺取ニ付五寸ニ而切是又貳挺取之節掛合可申

御本丸西丸共 五寸取極合
外ヶ輪向を 六寸取極合

一貳枚割之節を壹通荒木巾七寸ツ、ニノ板挽を立ル
當時桶方直段之内に込

一井戸ヶ輪厚サを不斷貳挺取ニ而出來
但厚サ壹寸七八分也

貳挺取ニ而巾六寸五分と成
但側厚貳寸五分壹挺取巾を六寸五分と成

樽木遣拂之儀ニ付御本丸大廣間雪隠下次桶厚貳寸五分貳挺取ニ付五寸五分ニ而巾を切候
様石川多次郎奉行に申聞寛政八辰年四月廿九日評議之上相極
中頃用之

厚貳寸より 貳寸五分迄 巾五寸五分ニノ貳挺取

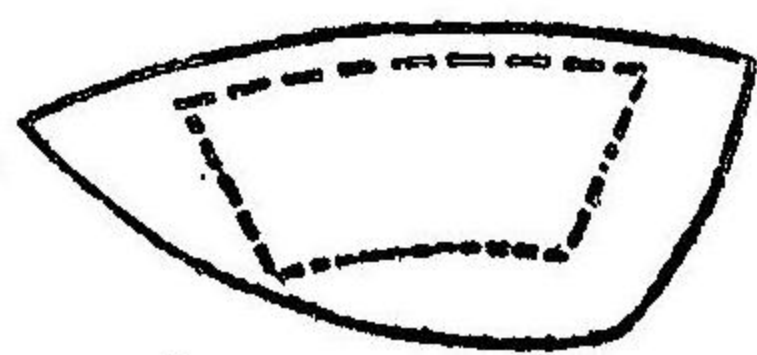
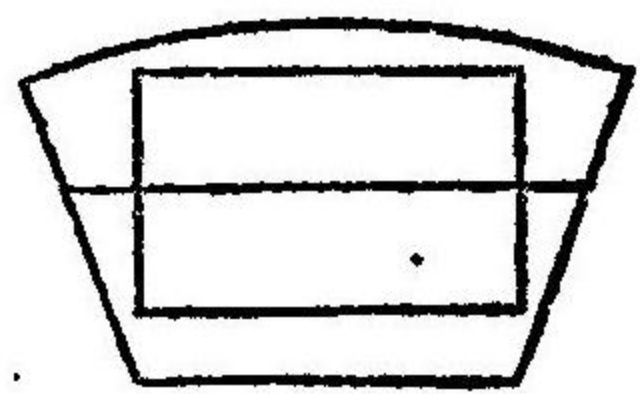
厚三寸以上を巾五寸ニノ壹挺取

前々用之

厚貳寸 巾六寸五分 貳挺取

厚貳寸五分 巾六寸五分 壹挺

差渡三尺 長六尺 厚貳寸 二而樽木九挺半也



如斯木取候故桶
内の方へ木表出
る

數手桶十五ニ付大樽木壹挺也

一釣瓶二ツニ付大樽木壹挺 桶方 高 壹尺九寸
本途 差渡 九寸
厚 八分 一寸迄

井ヶ輪一ヶ輪 九寸廻り
三本

一多賀竹 化粧ヶ輪 三尺位 同貳本
數手桶三十二付 五六寸廻り
六本

當時桶方より出す

一井ヶ輪合釘

壹割ニ付 四寸合釘五本ツ、

一井ヶ輪一ト合口

槇皮平均拾把當 但壹把ノミ
長五尺

一同一ト合口 白へふ土 四俵半 三斗五升入

一井戸假梓 大サ一間より一間半二間二 間半と段を取高サハ壹間

北山縦五六寸角當時松丸太面付を用上下梓柱胴ノ帯付鯨懸矢板立板へ入御藏香板を用

一同捨梓 右同斷

一投渡く捨土臺 井戸屋形之柱踏ニ致 跡先地山へ入

投渡く丸太步行脊板等入用

一寛竹遣ひ方定 廻り太サハ何れも目通ニ付根 より五尺之所ニ而之寸法也

壹尺貳寸廻り 長三間遣

壹尺廻り 長貳間半遣

一尿吐筒 御と御次向と晒竹但御成先等ハ晒ニ不及

長貳尺八寸大サ七八寸廻りニ而節能拔取外之節削丸ノ口之處外長貳寸通り皮目を削内廻り丸面取とくさ磨キ粘入紙ニ而張

土藏 御檢御多門

一壁木舞四寸廻竹 一坪ニ付 拾三本

但尺八竹ハ外ニ加ル土藏卷竹ハ坪ニ籠木小舞之分ハ此内ニ引去 坪之見様廻り間數に高を掛壁坪を出し戸口窓之坪を引去候事

一桁面土臺卷竹別段貳ツ割貳通り打壹間ニ半本ツ、四寸廻り之竹ニ而積

土藏壁

一瓦堀木廻竹 片面壹ニ付 四寸廻竹拾三本

但土臺下端ノ軒高サ迄取故土臺卷竹共籠ル 右手間附ノ高サ計割合壁坪計横高共懸合本坪ニする也

御檢御多門 瓦堀

一上ケ裏簀竹 壹坪ニ付 三四寸廻竹拾六本二分五厘

但瓦堀計ハ上ケ裏之坪軒長に打越を懸合ル坪を五割引竹積之坪と比尤壁之坪ハ貳割半引之坪也

壁坪ハ間也 竹積ハ坪也

簀竹押縁貫 間半目ニ打

壹坪ニ付壹挺半 壹挺半ノ子ニスレハ 壹挺半ノ減

一屋根卷竹 壹坪ニ付 三四寸廻竹 壹本二ツ割

一大壁之小廻 壹坪ニ付 四寸廻竹 六本半二ツ割

一菱竹矢來 五寸歩行ニシテ 壹間ニ貳拾四本

但布竹ハ外ニ加へる

十一御藏石

一平築石

長壹尺五寸迄

面壹尺貳寸迄

長貳尺六寸迄

面壹尺九寸迄

長貳尺八寸迄

面壹尺六寸迄

長貳尺三寸迄

面壹尺四寸迄

一岩岐石

長三尺五寸迄

巾壹尺貳寸

長四尺五寸迄

巾七尺八寸

一切居石

面壹尺貳寸

巾壹尺貳寸

面壹尺四寸迄

巾九寸

一雲見青石

長三尺

根入八壹尺三寸迄

一見高青石

長三尺

巾壹尺貳寸

厚三寸

一新小田原石

長三尺

巾壹尺

長貳尺六寸迄

厚五寸

長貳尺七寸迄

巾七尺八寸

一多賀石

長壹尺貳寸迄

巾三寸

一玄蕃石

長三尺五寸

面壹尺貳寸

一丸居石

面壹尺四寸迄

巾壹尺貳寸

一四半石

面壹尺三寸迄

厚三寸

一鱗石

山延

甲軒

一田子石

今ハ無之由

一川津石

田子石代ニ遣

一割栗石

六五立坪ニ而差出ニ成

是山取之大成石水端柱石穴突之下ハ入也又石垣之節
友飼共石垣之根を不洗込めニ入る也

安永八己亥年六月
石方 左善 太五 郎差出

賣石諸品寸法

小松原	長貳尺 <small>分</small>	巾八九寸
一並岩岐	長三尺 <small>分</small>	厚五六寸
新山	長貳尺五寸 <small>分</small>	巾壹尺貳寸
一同石	長三尺 <small>分</small>	厚五六寸
一二之岩岐	長四尺 <small>分</small>	巾壹尺貳寸
一三之岩岐	長四尺 <small>分</small>	厚五六寸
一〇三印岩岐	長五尺 <small>分</small>	巾壹尺三寸
一同石	長六尺	厚七八寸
一長物石	長	巾壹尺三寸
一右同斷	長七尺	厚八寸
一同石	長八尺五寸	巾壹尺三四寸
一右同斷	長八尺	厚八九寸
一同石	長八尺五寸	巾壹尺四寸
一右同斷	長九尺	厚壹尺
一同石	長壹丈	巾壹尺五寸
一大土臺石	長壹丈壹尺	厚壹尺 <small>分</small> 壹尺壹寸 <small>分</small>
一同石	長壹丈貳尺	巾壹尺五寸
一同石	長壹丈貳尺	厚壹尺壹寸
一同石	長壹丈貳尺	巾壹尺五寸

一同石	長一丈三尺	巾壹尺六寸
一隅石	長貳尺四五寸	厚壹尺 <small>分</small> 貳寸
一同石	長貳尺三寸	角壹尺三寸
一同石	長貳尺六寸	角壹尺六寸
一同石	長貳尺八寸	角壹尺八寸
一同石	長貳尺九寸	角壹尺九寸
一長隅石	長貳尺五寸	角壹尺壹貳寸
一同石	長貳尺六七八寸	角壹尺貳三寸
一同石	長三尺	角壹尺貳寸
一同石	長三尺貳寸	角壹尺三四寸
一同石	長三尺七八九寸	角壹尺四五六寸
一同石	長四尺 <small>分</small>	角壹尺五六七寸
一同石	長四尺五寸 <small>分</small>	角壹尺八寸
一同石	長四尺五寸	角貳尺
一同石	長五尺	角貳尺三寸
一同石	長五尺貳寸	

一同石	長六尺	角貳尺五寸
一柱口石	貳尺	高壹尺貳三寸
一同石	壹尺九寸	高壹尺貳寸
一同石	壹尺八寸	高壹尺壹寸
一同石	壹尺七寸	高壹尺壹寸
一同石	壹尺六寸	高壹尺
一同石	壹尺五寸	高壹尺
一同石	壹尺四寸	高八寸
一同石	壹尺三寸	高七寸
一中間地	面壹尺貳三寸	扣壹尺貳三寸
一同石	面壹尺六七寸	扣壹尺三寸
一同石	面壹尺七八寸	扣壹尺五六寸
一同石	面壹尺八九寸	扣壹尺五六寸
一同石	面壹尺貳三寸	扣壹尺壹貳寸五寸
一板石	長三尺五寸	巾壹尺貳寸
一同並石	長三尺五寸	巾壹尺貳寸

一同	長三尺	巾壹尺九寸
一同	長貳尺五寸	巾壹尺九寸八分
一貳枚合上段石	長四尺	巾壹尺貳寸五分
一同	長四尺五寸	巾壹尺貳寸
一同	長五尺	巾壹尺貳寸
一同	長五尺五寸	巾壹尺五寸
一同	長六尺	巾壹尺五寸
一同	長六尺	巾壹尺五寸
一同	長七尺	巾壹尺八寸
一花石	貳尺	巾壹尺八寸
一同	三尺	巾壹尺
一同	三尺貳寸四方	厚壹尺貳寸
一同	三尺	厚壹尺五寸
一同	三尺五寸	厚壹尺五寸
一同	三尺七八寸	厚壹尺五六寸
一同	四尺	厚壹尺七八寸
一同	四尺	厚貳尺

一同	四尺	厚貳尺貳寸
一同	五尺	厚壹尺五寸
一同	五尺五寸	厚貳尺三寸
一扉石	長四尺	貳尺
一同	長五尺	五寸
一同	長五尺五寸	
一同	長六尺	
一六面石	拾四口	
	壹尺五寸	壹尺八寸
	壹尺六寸	壹尺七寸
	貳尺貳寸	貳尺四寸
	貳尺九寸	貳尺四寸
	三尺	三尺貳寸
一大間地	面貳尺貳寸	扣貳尺七寸
	面貳尺貳寸	扣貳尺七寸
一同	面貳尺七寸	扣貳尺四寸
一同	面貳尺七寸	扣貳尺四寸
一同	面壹尺七寸	扣貳尺三寸
一同	面壹尺六寸	扣貳尺三寸
一並玄蕃石	長三尺五寸	厚壹尺壹寸
一同	長三尺五寸	厚壹尺壹寸
		厚四寸

一青石	長三尺五寸	厚壹尺壹寸
一同	長三尺	厚三寸
一小田原石	長三尺	厚壹尺壹寸
一下田石	長三尺	厚三寸
一挽白	六寸五分	厚貳寸五分
一才ひつ	大サ壹尺四方	高壹尺壹寸
一川津石	五口	
	壹尺四寸	壹尺七寸
	壹尺八寸	壹尺四寸
一七輪	六口	
	壹尺四寸	壹尺六寸
	壹尺壹寸	壹尺三寸
一九七輪	四口	
	壹尺四寸	壹尺貳寸
	壹尺三寸	
一下田石火鉢	貳口	
	長貳尺	
一春日燈籠下り見影石	高六尺	
	高七尺	

一同伊豆石 貳口 高六尺 高七尺

一丸石 差渡壹尺貳寸五分迄

一伊豆見影石 長四尺 巾壹尺貳寸 厚五六寸

一同板石 長三尺 巾壹尺 厚三四寸

以上

天明七未年石方國役高 江戸中石工人の通岡に取集 一三百人

石高國役日雇の遣拂候節本途直段ニ而代盛致し國役相勤候節之本途直段之内石切作料并 鑿燒鍛冶作料飯米共代計之御入用高日雇登人ニ付三匁九分ニ而割返國役人數ニ相直遣拂 尤石請取車力持運并諸手傳共代之本途直段ニ而代盛致し候右之代銀ハ石方ニ相渡國役之 龜岡相勤 但取崩人足積例之通

十二釘積

一折釘 太釘 四分一捨

一釘 類 三步一捨

一鏡 片爪捨

一敷板 羽目板 壹坪ニ付 釘ノ五分一也 貳寸釘也

下部屋向御役屋敷大番用等床板壹坪九拾本

一釣木 壹間目 釣木送り五本 裏木送り貳本半

一堀羽重 壹坪ニ付 五拾本 壹五分

一張付下羽目 同 貳百四拾本 貳寸

一四分市 同 貳拾本 壹本 五本打 貳寸釘

但塗四分一ニ別段也

辰六月下御勘定所土藏御修復敷板 厚壹寸長貳間木 壹坪九拾本 三五分釘 但前ノ百五拾本

一屋根挽木廻 壹坪ニ付 五十八本半 三寸 貳寸

但小廻壹挺四本半、拾三通 田舎間ハ拾貳挺ニ付五拾四本

一同卷竹 同 拾五本 三四寸 交打

但五本三通

一垂木 同 拾貳本半 五寸

但五本、五通り貳拾五本貳割